

## 日本女子大学社会福祉学科50年史(五)

## —文学部社会福祉学科時代—

社会福祉学科50年史編纂委員会

## はじめに

この号では、昭和33年度、家政学部より文学部へ移行した時点からの学科の卒業生に対する調査を中心にまとめた。しかし、前号同様、歴史というにはあまりにも身近すぎるうえに資料発掘も不十分であり省察も充分ではない。したがってむしろ一種の資料集としてお考えいただきたい。

昭和30年(1955)入学、昭和34年(1959)卒業。印刷の都合上、主要なものだけを掲載した。

## 1. 文学部社会福祉学科への移行

昭和33年度から家政学部より文学部へ移行したが当時の社会福祉学科の役割を示す資料は次のようであった。

## 社会福祉学科

昭和33・10・20(案)

## 第一 主旨

1. 昭和33年度から文学部に属するようになった本学科の役割は  
自然科学、人文科学、社会科学の三領域のうち、社会科学部門を主に担当することにある。

2. 従って、本学科においては  
近代市民社会の発展法則を研究し、社会の福祉への道を追求すること  
に主たる狙いがある。

3. このためには、差し当って  
現在の社会福祉学科を(イ)社会事業専攻と(ロ)産業福祉専攻の二つに分けることが必要である。

4. この二つの専攻は社会福祉を進めるために  
いわゆる社会問題の追求とその打開の方法  
について  
相互に補完し合うものとする。

## 第二 方法

本学科を二つの専攻に分けるに当っては次のような方法による。

## 1. 講義科目を次の三講座とする

第一講座 共通基礎科目  
第二講座 社会事業科目  
第三講座 産業福祉科目

それぞれの科目編成は「別表」の通りである。

2. 二つの専攻は三年に進学するときに学生の志望を考慮して分ける。

3. 二つの専攻に分れたのちの履修すべき最低単位数は次の通りである。

イ 共通基礎科目  
必( )単位 選( )単位  
ロ 社会事業科目  
必( )単位 選( )単位  
ハ 産業福祉科目  
必( )単位 選( )単位

4. この実施のためには  
産業社会学関係担当の専任(助教授クラス)の補充を行う

## 第三 実施

この案は昭和34年度から実現を期する。

## (別表) 講義科目編成表

## 第一講座(共通基礎科目)

	単位	必選	学年
1. 社会問題概論	4	必	2
2. 社会哲学(思想)	4	〃	3
3. 社会保障論	4	〃	3
4. 社会福祉概論 (社会福祉事業史を含む)	4	〃	2 見学(施設研究)
5. 生活構造論	2	必	4
6. 社会調査	4	〃	3
7. 社会心理学	2	選	2

8. 都市農村社会学	4	選	4
9. 家族論	4	"	2
10. 近代社会史	4	"	2
11. 福祉国家論	2	"	4
12. 演習	4	"	4

9. 施設経営論	2	選	4
10. 医学知識	2	"	3
11. 社会事業各論	2	"	3
12. 実習	6	"	3・4

第二講座(社会事業科目)

第三講座(産業福祉科目)

1. 社会医学	2	必	3
2. 社会事業法制	4	"	4
3. 精神衛生学	4	"	3
4. ケース・ワーク	4	"	4
5. グループ・ワーク	2	"	3
6. 児童福祉	4	"	3
7. 発達心理学	2	選	3
8. コミュニティ・ オーガニゼーション	2	"	4

1. 産業構造	2	必	3
2. 産業社会学	4	"	3
3. 労働経済	4	"	3
4. 経済政策	4	"	3
5. 社会政策	4	選	4
6. 労働法制	2	"	4
7. 職業指導	2	"	3
8. 企業経営論	2	"	4
9. 産業福祉各論	2	"	4
10. 演習	4	必	4

社会福祉学科 学年別学科目配当表

◎一年次

◎二年次

前 期			後 期			前 期			後 期		
国 語	2		国 語	2		哲 学	2		哲 学	2	
社 会 学	2		社 会 学	2		英 語	2		英 語	2	
経 済 学	2		経 済 学	2		法 学	2		法 学	2	
心 理 学	2		心 理 学	2							
英 語	2		英 語	2		社会問題	2		社会問題	2	
生 理 学	4		生 物 学	4		社会福祉	2		社会福祉	2	
数 学	2		数 学	2		体育衛生	1		体育理論	1	
体育(実技)	$\frac{1}{3}$		体育(実技)	$\frac{1}{3}$							
	$16\frac{1}{3}$			$16\frac{1}{3}$			11			11	
(選択英語 第二外国語)			( , )			選 択			選 択		
						社会心理	2				
						家族論	2		家族論	2	
						近代日本史	2		近代日本史	2	

見学(施設研究1)

◎三年次

前 期			後 期		
社 会 哲 学	2		社 会 哲 学	2	
社 会 保 障	2		社 会 保 障	2	
社 会 調 査	2		社 会 調 査	2	
	6			6	
選 択 (演習 2)			選 択 (演習 2)		
第二講座			第二講座		
社会医学 2			精神衛生学 2		
			第三講座		
			産業社会学 2		

グループ・ワーク 2	産業社会学 2	児童福祉 2	労働経済 2
精神衛生学 2	労働経済 2	実習 2	経済政策 2
児童福祉 2	経済政策 2	(6)	演習 2
(8)	演習 2		(8)
選択	(10)	選択	選択
(発達心理学 2)	選択	(医学知識 2)	(職業指導 2)
(社会事業各論 2)		(社会事業各論 2)	
必 ⑭	必 ⑮	必 ⑯	必 ⑰

◎四年次

前 期		後 期	
生活構造論 2		選択	
2		(都市農村社会学 2)	
選択		(福祉国家論 2)	
(都市農村社会学 2)		(4)	
(福祉国家論 2)			
(4)			
第二講座	第三講座	第二講座	第三講座
社会事業法制 2	演習 2	社会事業法制 2	演習 2
ケース・ワーク 2	2	ケース・ワーク 2	2
実習 2		実習 2	
6	選択	6	選択
選択	(社会政策 2)	選択	(社会政策 2)
(施設経営論 2)	(労働法制 2)	(コミュニティ・オ ーガニゼーション 2)	(企業経営論 2)
必 ⑧	(産業福祉各論 2)	必 ⑥	必 ②
	必 ④		

2 当時のカリキュラムと教授陣

文学部へ移行後4年めのカリキュラムは以下の通りである。

文学部社会福祉学科カリキュラム

学科目名	単位数	毎週 時数	年次	講義概要	担当者	備考
第一講座〔基礎学〕						
社会哲学	必4	2.2	Ⅲ	現代社会問題の哲学的考察	菅 支 那	
社会福祉概論	必4	2.2	Ⅱ	社会福祉全般にわたる概論	一番ヶ瀬 康子	
社会問題概論	必4	2.2	Ⅱ	社会問題の形成と形態	松 尾 均	
生活構造	選3	2.2	Ⅲ・Ⅳ	最低生活費の理論と実際	江 口 英 一	36年度
近代経済史	選3	2.2	Ⅱ		一番ヶ瀬 康子	
社会心理学	選3	2.2	Ⅱ	理論体系と応用	高 月 東 一	
社会調査統計	必3	2.2	Ⅲ	社会統計の原理および社会調査の 原理と実際	江 口 英 一	
社会福祉演習	{ 必2 選2	2.2		C.S.Lewis: Beyond Personalityの講演と講義	菅 支 那	
		2.2		英書による専門職社会事業の究明	松 本 武 子	

学科目名	単位数	毎週 時数	年次	講義概要	担当者	備考
<b>第二講座〔産業福祉〕</b>						
経済政策	必4	2.2	Ⅳ	経済政策の史的展開	松尾 均	
社会政策	選3	2.2	Ⅲ		"	36年度
社会保障	選3	2.2	Ⅲ	貧困およびその対策としての社会 保障論	江口 英一	37年度
家族論	選3	2.2	Ⅱ・Ⅲ	家族関係の分析とその調整のため の理論	磯野 富士子	37年度
社会福祉法制行政	選3	2.2	Ⅳ	社会福祉に関する立法, 行政の理 論および実際	福山 政一	
産業社会学	選3	2.2	Ⅲ	産業活動の再生産論	篠崎 茂穂	37年度
農村社会学	選3	2.2	Ⅱ・Ⅳ	農村社会構造一般と日本農村 社会	埴 遼一	36年度
経営管理論	選3	2.2	Ⅲ	経営と管理の理論的研究	高月 東一	
職業指導	選2	前2	Ⅲ	職業指導の成立と理論	遊 佐敏彦	
<b>第三講座〔社会事業〕</b>						
ケース・ワーク	必1 必3	前2 2.2	Ⅲ Ⅳ	専門職社会事業の意義と方法につ いて	松本 武子	
グループ・ワーク	選2	後2	Ⅲ	グループ構成, 作用その処遇につ いて	吉沢 英子	
コミュニティ・オー ガニゼーション	選2	後2	Ⅳ	福祉のため地域社会の資源および能 力を動員し組織化する過程と技術	松本 武子	
社会事業施設経 営管理論	選2	前2	Ⅱ・Ⅳ	施設経営の原理と対策	松島 正義	36年度
児童福祉	選3	2.2	Ⅲ	児童福祉のための原理と実際	"	
社会医学	選2	後2	Ⅲ		佐藤 美実	
発達心理学	選3	2.2	Ⅲ	人間の精神発達について		
精神衛生学	選3	2.2	Ⅱ・Ⅳ	精神異常の諸相とその予防	井村 恒郎	37年度
社会事業実習	必1		Ⅲ		松本・吉沢	
	必1		Ⅲ	施設における調査ならびに実習	江口・一番ヶ瀬	
社会調査実習	必4		Ⅳ			

資料 『履修便覧 日本女子大学 1961』

### 3. 学生生活

当時の学生生活はどのようなものであったか。『社会福祉』16号で掲載した調査用紙を若干修正し、当時の卒業生におくり、回収されたものを中心に以下の報告をする。なお調査用紙の回収状況は次の通りである。

回収状況 (50.9.9現在)

回生	発送数	返信数	返送
9	48	11	1
10	40	5	0
11	43	7	1
12	52	13	0
13	48	9	0
14	56	12	0
15	53	8	1
16	58	10	2
17	41	7	1
18	47	6	3
19	41	6	0
20	56	7	2
計	583	101	11

A 文学部社会福祉学科入学時について

1. 出身地

県	市	郡	計	県	市	郡	計
北海道	2			山梨	2		
青森	1			長野	1	1	
岩手	1			静岡	3	1	
宮城	3			愛知	1	1	
秋田	1			三重	1		
山形	1			大阪	1		
福島	4			兵庫	1		
茨城	1			島根	1		
群馬	1			岡山	4		
埼玉	2			広島	1		
千葉	2			山口	3		
東京	40			愛媛		1	
神奈川	6			福岡	2		
新潟		1		長崎	1		
富山	2	1		宮崎	1		
石川	2			鹿児島	1		
福井	2			合計	95	6	101

2. 両親の有無

	有	無	計
父	91	10	101
母	99	2	101

両親の職業

職業名	父%	母%	備考
自営業	27.4	5.0	自営業 商業、弁護士、医師、病院、スーパー経営、酒悦、材木問屋、味噌製造、建築・金物商、鋼材商、劇場経営、保育園長、学習塾経営
公務員・公社員	17.6	3.0	
会社員	26.0	3.0	
会社役員	15.0	1.0	
団体役員	3.0	0	
大学教・助教	3.0	1.0	
教授・講師			
僧侶	2.0	0	
自由業	2.0	0	
農業者	1.0	2.0	
牧師	1.0		公務員 国立大学教授、高校、中学校校長、官吏、軍人、国鉄
退職教員	1.0	1.0	
無職	1.0	84.0	

3. 社会福祉学科を何によって知ったか

進学案内	58%
先生	10
先輩	10
家族父	7
母	4

兄弟姉妹 6%

叔父、叔母 2

その他 3

4. 社会福祉学科へは自分で望んで入ったか

イ. 自分で望んで入る 97名

ロ. 人にすすめられて 2名

ハ. 第一志望ではなかった 2名

その理由

- 将来社会福祉関係の仕事をしたが 24名
- 社会のために何かつくりたいと思った 11
- 学科目に興味を持った 11
- 自立出来る資格を得たかった 5
- 福祉の本当の意味を知りたい 6
- 児童福祉、社会政策を学びたかった 3
- 専門職としての魅力があったから 3
- 世の中を知らぬ自分が恐ろしかったので、「社会」とつながりのある勉強をしたかった 1
- 社会や人間に興味があった 1
- 私の生きている社会について知るのに、最も現実的で科学的であると思ったから 1
- 人とかかわり合いの仕事をしたかった 2
- 当時家に精薄の子どもを預っていたので 1
- 中学時代から保母になりたかった 1
- 高校の時から専門的に勉強して将来の life work にしたかった 1
- 自分に向いていると思った 2
- 小さい時から他人の世話をするのが好き 1
- 当時は一生の仕事として自分にも何かできることがあるのではないかと、思ったため 1
- 貧農地帯に育ち、生活水準の差が子どもの間にも入り込み、又無知から精薄児がいじめられるのを見て中学時代より社会福祉や特殊教育に興味を持っていたため 1
- 高校時代から塾教育に興味があり、大学は教育か福祉の分野を勉強したいと思っていた 1
- 女性の職業として良いと思った 2
- 医療ケースワーカーに関心があった 1
- 将来僻地の教師になりたい希望を持っていたので 1
- 家庭裁判所等に勤めたかったため 2
- 新しい分野を勉強したかったから 1
- 国文科に入学したが自分の生き方を社会と直結するために転科してきた 1

- 父の希望があった 1
- 他の科に行きたいところがなかった 1
- 法社会学を希望 1
- 婦人労働につき学びたい 1
- ボランティア活動に関係していた 1
- 第二志望で 2
- 女子大ならどの科でもよかった 1
- 無回答 8

5. 入学に対して家族の意見

	賛成	反対	無回答	計
父	74.7%	8.8%	16.5%	100%
母	75.0%	14.0%	11.0%	100%
その他 (兄, 叔父)	2.0%	2.0%	96.0%	100%

イ. 父賛成の理由

- 本人の希望を尊重 4 2
- 他人の役に立つような生き方を望んだ 4
- 社会を広い視野で学び自分を知る良い機会 2
- 社会福祉に興味を持っている 2
- 人間形成に役立つ 2
- ユニークな学科 1
- 女子でも経済的に独立出来る努力は必要 1
- 女子大の中の科だから 2
- 経済の許す限り学びたいことは学ばせる 1
- 本人に向いているとって 2

父反対の理由

- 大学より花嫁修業を希望する 2
- 女子は家政科がよい 1
- 地元の大学が良い 1
- 他大学の英文科に合格したため、そちらの方が良い 1
- 薬剤師又は教師が女性の適職である 1
- 仕事として考えるのは大変だから 1
- 卒業して社会事業関係の仕事をした場合、自分自身まで暗いものになってしまうのではないかと心配 1

ロ. 母賛成の理由

- 本人の好きな道へすすんだらよい 4 0
- これからの社会は福祉が問題となるから専門的分野を学ぶ必要がある 4
- 女性が学ぶのに向いている 1
- 社会勉強によい 1

- 女子でも経済的自立への努力は必要 2
- 専門職を持つことが必要 1
- 民生委員, 未亡人会などに関係しているので積極的 2
- 日本女子大をのぞむ 4

母反対の理由

- 家政科ならよいが、と反対された 4
- 児童科を希望した 1
- 本人に向いてないのでは 1
- 救世軍の感じがする 1
- 薬剤師か教員が女性の適職である 1
- ハンディを負った者に対する働きかけよりは、正常者に対する教育の方が意味がある 1
- 女子に学問の要はない 1
- 仕事として考えるのは大変だから 1
- 社会の裏側を見る必要はない 1

ハ. その他

- 特にどうということはない 1
- 兄は、自ら苦しむようなところへ行く必要はない 1
- 伯父は、学生運動に熱中するのではないかと心配した 1

B 在学時について

1. 学校内の生活において

イ. 良かったこと

- 多くの良き師, 良き友人にめぐり逢えた 2 7
- クラブ活動をしたこと 9
- 寮生活で他科の上・下級生と接することが出来寮の先生にいろいろ教えられたこと 6
- 実践倫理の講義があったこと 2
- グループワークが良く出来たこと 1
- 比較的自由な空気があり、自分の意志しだいでさまざまな経験や勉強が出来て、良き学生生活を送れたこと 4
- 愛校心を持った先生がおられた点, 立派な先生がおられた点, 良い講義がかなりあった 3
- 友を得, 読書, 音楽にと内省的な生活を経験出来たこと。大学生活はとても楽しかった 3
- 知的関心の初歩的動機づけを受けた 1
- クラスの人数が少なかったので、他大学に較べて、先生や友人の関係が密だったこと私立育ち

の学生の、のびのびした明るさに接したこと	3	• 社会福祉学科の研究活動をしなかった	1
• 親元をはじめて離れて、全てのことを自分一人でやらねばならなかったこと	1	• セツルなど現実場面での接触をおこたった	1
• 優秀な友人に恵まれて努力したこと	1	• 社会福祉はやはり自分の思想傾向にそぐわず	1
• 男女共学でなかったこと	1	• 系統だった学問としての社会福祉科でなかった	1
• 自治会活動	1	• 4年間では足りない	1
• 一つ専門の勉強をしたこと	1	• 現在非常に勉強不足を感じています	1
• 縦のつながりがはっきりして、先輩との交りが出来た	1	• 巾広く勉強しなかったこと	1
• 科学的、論理的にものを見る目を養われた	2	• 研究が浅く、狭かった点	1
• 入学前に持っていた福祉観をひっくりかえされた	1	• 転科して国文学を学びたかった	1
• 女子大という、静かでおちついた環境	1	• 積極的にクラスの中に入れてよかった	1
• 卒論のためのゼミの生活	3	• 図書館をもっと利用すればよかった	1
• 社会福祉に関する知識と意欲が0から幾分高められた	1	• やはり進路を間違えたこと	1
• 学生数が少なく家族的な雰囲気があったこと、他校の授業が受けられた、割合真面目に勉強しその満足感がある	3	• 興味もてるものをもてなかったこと	1
• 各研究会活動、先生方とのコミュニケーション科における実習、先生方が親切であったこと	3	• 福祉関係の本を読まなかったこと	1
• 図書館が整備されて開架式になり、資料も目にふれ易くなった点、専門科目になってからは授業が受けやすくなった。他学科の講義を受けることも出来た	3	• 4年次になってはじめて勉強のおもしろさを知ったが、時すでに遅しの感	1
• 講義の出欠がきびしくなかったので自由にできた	1	• 社会福祉科が、中途半端であったこと	1
• 女性がリーダーシップをとって学園生活を営んでいるという実感があったこと	1	• 基本的学力を学ぶ講座が少なかった	1
• 社会福祉科改革にあたっていろいろ討論し学べたこと	1	• 社会福祉の中で一分野に集中しなかったこと	1
		• 成瀬先生の思想をもっと学ぶべきだった	1
		ハ・残念だったこと	
		• 男女共学でなかったこと	1
		• 卒業後記憶に残るような講義がなかった	2
		• 3年で文学部に変ったが、1年から文学部であればよかった	1
		• 経済学の講義を聞きたかった	1
		• 結婚のため、職業も勉強も中途半端になった	1
		• 自発的に勉強すべきであった	3
		• 級友の死	2
		• 教授とのつながりがうすかった。セミナー形式がとぼしかった	2
		• 大学院に進むのをやめたこと	1
		• 勉強が出来なかった	5
		• 安保斗争に時間を消費され、専門の勉強が充分でなかった	1
		• 学問的に深さのない授業があった	2
		• 級としてまとまりが得られなかった	1
		• 語学の修得にもっと努力すべきであった	3
		• 他の科の専門授業も受けたかったが、時間がとれなかった	1
		• 学科目をもっと広く開いて欲しかった	1
		• 理論的物の考え方が身につかなかった	1
ロ・後悔したこと			
• もっと勉強に本腰を入れるべきであった	3 1		
• クラブ活動に参加しなかった、途中でやめてしまったこと	5		
• 実習があり、クラブ活動や旅行が出来なかったこと	2		
• 自由な時間を、もっと積極的に使えばよかったと思う	2		
• 男女共学でなかった	3		
• クラブ活動の友人との交際が主となり、級の人とのつき合いが殆んどなかった	1		

• 戸谷先生がおやめになった	1	• 研究設備が充実していない	1
• 寮生活を経験しておきたかった	1	• 実践倫理	3
• 何事も徹底してやらなかった	1	• 次第に利己主義者が増えた	1
• 他の学部との交流が少なかった	1	• いいかげんな授業，授業がもの足りなかった	2
• 男友達が一人もいなかった	1	• 学問研究的でなく，躰教育のような空気	1
• 縦のつながりが少ない	1	• 勉強意欲に欠ける人達が多かった	4
• 外からの講師を迎えて欲しかった	1	• 社会福祉科がダメ人間（学力面と思う）の集り	
• セツルメント活動にもっと本腰を入れておけばよかった	1	• のように云われたこと	2
• 学内で科のランクづけの様なものがあった	1	• 寮生活の大部屋にとけこめなかった	2
• 学問を身につける姿勢を持つべきだった	1	• クラスの雰囲気にとけこめず疎外感があった	1
• 自分から積極的に入っていかなければならなかった	1	• 世間一般からお嬢さん学校とみられること	1
• のだろうが，先生方が遠い存在に思われたこと	1	• 下宿生活	1
• 社会福祉学科の大学院がなかったこと	1	• 学生指導部が学生を監視しているような態度で	
• 学生生活の目的をもっとはっきり自覚して送ればよかった	1	• あったこと（学生運動と関連して）	1
• 文学をもう少し勉強すればよかったと思う	1	• 英語が大嫌いで赤点をとりました	1
• 群馬から出てきて少しコンプレックスを持っていたこと	1	• 社会のことが身近かに感じられ，自分の好きな	
• 特別奨学金を預いていたが，お金が足りなくてアルバイト等であまり暇がなかったこと	1	• ように勉強出来なかった	1
• 松尾教授の経済学がもっと現実的なものであったなら	1	• 履修教科が多く，広く，浅くという程度だった点	1
• 教職の免許をとるべきだった	1	• 遠距離通学だったこと	1
• 先生方とのつながりが，あまり密にできなかったこと	1	• 学生運動でのいがみ合い	2
• ひきつけられる授業が少く，活気のある学習活動ができなかった	1	• 男子禁制のような雰囲気があって閉鎖的	1
• 一対一の対話が教授との間にできなかったこと	1		
• 転科に対して両親を説得出来なかったこと	1	ホ. その他	
• 初心の目的を貫けなかったこと	1	• 図書館が狭くて利用しにくかった	1
• せっかくの語学力は入学後まったく低下した	1	• 教職の免状が2教科修得出来る大学が多いので「社会科」と「司書」が修得出来ればよかった	1
• 勉強に集中出来なかった	1	• 寮生活は大変貴重であった	1
• もう少し学友と思い出となるような行動をすべきだった	1	• 留学のための語学の勉強をしていた	1
• スポーツを何か一つマスターしておきたかった	1	• 心理関係の勉強がしたかった	1
• 一時的にせよ，カリキュラムがなくなり授業が受けられなかったこと	1	• 明治学院とか日社大とか（教授・学生とも）横	
• 体の具合が悪く，しばらく休んでしまったこと	1	• のつながりをもっと作ってほしい	1
		• 目白祭など，うちこめることがあったこと	1
ニ. いやだったこと		• 図書館が新しくなったこと（17回生）	1
• クラスのまとまりがなかった	4		
• 嫌な講義が必須であった	1	2. 当時の社会情勢で印象に残ったこと	
		• 警職法反対のデモに日本女子大として始めて50人参加	
		• 学生運動が盛んになりつつあるが，行動的でなく言論が主であった	
		• 昭和32年から神武景気になる	
		• 上級生の就職が，なべ底景気で不況であった	
		• アラブ問題	
		• 安保問題	
		• 原水禁大会の開催	

- 2年の時始めてデモ集会に参加した
- 高度経済成長時代が頂点に近く、各企業の初任給が年々ひき上げられた
- 安保斗争が最もはげしい時、クラブ活動でも、クラスでも討論
- 学生運動が強化されてきた、国会請願デモに明けくれた
- 三池問題
- 安保自然承認
- ケネディ暗殺
- 大学管理法案制定反対のデモ行進に始めて参加したこと
- 現在の赤軍派等の前進で東大、早大等で学内紛争の話聞き、現場を見に行きました。高いバリケードや建物の破れたのが印象的でした
- 朝日訴訟の問題
- 当時は政治活動に関心がなかったので理解出来なかった
- 東京オリンピック
- 慶大、早大での学費値上げ反対斗争での学内封鎖
- 原水禁運動の件
- 日韓条約の締結
- ベトナム戦争にアメリカが本格的に介入した。南ベトナム反政府デモ
- 学生運動が静かであった、おそらく最後の年
- 原子力潜水艦の横須賀寄港と<核問題>
- 在学中、丁度20才のときに敗戦後20年を迎え、第1回8・15国民集会に出席して、日本の情況の問題に目をひかれました。そのころから日韓問題、国会の黒い霧問題など民主主義政治が根本から問い直される事件が起きていたように記憶します。又70年の大学斗争の前ぶれのような早稲田斗争などもクラブの関係からか、強い印象に残っている事件です
- 新潟地震
- 建国記念日制定反対運動
- 高度経済成長期の安定期だったので、まだ社会には信頼感が多少は残っていた。学生運動も語り合う態度をくづしてはいなかった
- 10・21スト、日米安保条約の自動延長をめぐる論争が盛んとなり、学生デモなども活潑な動きを示した
- 月へ人類が行けたこと
- 学生運動の頂点にたったときで、自分の行動と頭

とが矛盾してかなり悩んだ時期であったが女子大がその中でどういう位置にあったのだろうか、考えたことがある。温室ではなかったか、あるいは我々が温室化させたのではないかと

### 3. 学生時代の宗教感

- 特になし 1 2
- 常に否定 1 2
- 全く感心がなかった 5
- キリスト教 1 2
- 宗教と芸術は密接な関係があると思った
- 自分の心の支えを宗教と考えていた
- 高校2年で受洗、教会へ通う
- 神を否定しない程度
- 聖書を通じ無教会キリスト教の信仰を得る
- 一つの宗教を信ずることは出来なかった
- 愛の神を知った
- 当時は禅宗に関心をもった 4
- あらゆる宗教を勉強してみたいと思った
- キリスト教、仏教どちらも否定しない
- 自然界の大きな力が神
- 無神論
- カトリックにひかれていた
- 追求する姿勢だけは持ちつづけていた
- Y・W・C・Aに入っていた
- 先輩、友人と心から語り合った
- 両親はクリスチャンであったが、私は信仰するという事に疑問があった。社会科学的な考え方をまづ学びたかった。しかし人間観(愛と生)平和を望む心など教えられる面が多いと思う
- 現実にあるものしか信じることができず、目に見えないものの力が働いているという考えは、どうしても出来ませんでした
- 無宗教、子どもの頃は思想的にキリスト教の影響を受けていた
- キリスト教に非常に関心を持ちながら、結果的には無信論者で終る
- 母がクリスチャンであり、帰郷すると教会の手伝いをしたが深く入ることはしなかった
- 祖先崇拝だけで、特定の宗教を信じていませんでした
- しっかりした信仰は持てなかったが、キリスト教、禅宗に興味をもっていた

- 神は常に自分の心の中にあるもので特に所属したものはない
- 友人にクリスチャンで誠実な方がいたのでその影響を受けた
- 真理・和・善といったものが最も大切とっておりました
- 特定の宗教を信じない、信仰を必要とする人のものであればよいと思う
- 敬けんな気もちで神仏は信じましたし、キリストの愛も信じました
- 友人とはよく話したが、やはり創造という考えにはなれず、進化論を考えていた
- 小さい時からクリスチャンホームに育てられたのでキリスト教の信仰を持ち続けておりました。大学1年の春に信仰告白をしてキリスト者になったことも学生時代でしたし、早稲田奉仕団、キリスト教学生会に入会し礼拝委員長などもしました。しかしつねに自己の信仰と実生活について悩み、哲学書、宗教書をむさぼり読んだ時期でもあります
- 非常に自由な考え方で、神というよりは、宇宙対人間。自然対人間という捉え方をしていた
- 宗教を持つこと自体考えられなかった
- 既成宗教団体には興味なし、しかし「人間の力ではどうしようもない力を神」と自分なりに思っていた

#### 4. 印象に残った講義

##### (講義名)

##### (担当の先生)

日本経済論	松尾均
哲学	菅支那
社会事業史	一番ヶ瀬康子
精神衛生	井村恒雄
ケースワーク	松本武子
世界史	石橋(史学科)
家族論	磯野富士子
社会学	篠崎茂穂
社会政策	松尾均
社会福祉史	一番ヶ瀬康子
児童福祉	松島正儀
社会福祉概論	一番ヶ瀬康子
グループワーク	吉沢英子
原書講読	菅支那子
社会問題概論	松尾均
経済学概論	松尾均

生理学	
家族論	
家族法	
社会病理	
社会福祉法制行政	
コミュニティー・オーガニゼーション	
近代経済史	
産業社会学	
農村経済学	
英語	
家族論	
社会心理学	
日本史	
生活構造論	
教育原理	
貧困論	
ケースワーク	
倫理学	
社会福祉事業概論	
社会福祉発達史	
実践倫理	
社会政策	
社会事業近代史	
法学・民法	
仏語	
特別講義(日本の家族)	
宗教哲学	
精神衛生	
近代国文学	
児童心理	
労働法	
英語	
政治学	
地誌学	
児童心理学	
万葉集	
生物学	
社会問題	
経営管理論	
老人福祉	
児童福祉概論	
児童問題	
西洋史概説	

湯浅明	
潮見	
磯野誠一	
高月東一	
福山政一	
松本武子	
松尾均	
松尾均	
塙遼一	
篠崎茂穂	
有賀喜左衛門	
高月東一	
石橋	
江口英一	
古川	
江口英一	
吉沢英子	
亀山健吉	
一番ヶ瀬康子	
一番ヶ瀬康子	
一番ヶ瀬康子	
江口英一	
一番ヶ瀬康子	
磯野誠一	
戸板俊敬	
有賀学長	
野見山不二	
平井富雄	
熊坂敦子	
松島正儀	
青木宗也	
大月	
篠崎茂穂	
佐藤	
天羽太平	
青木生子	
高橋憲子	
中野卓	
高木	
渡辺	
吉沢英子	
吉沢英子	
青山吉信	

カウンセリング  
 児童精神医学  
 文化人類学  
 家族法

拓 植 明 子  
 牧 田  
 中 根 千 枝  
 中 野

日赤中央病院  
 国立第2病院  
 横浜精神衛生研究所  
 文京福祉事務所

新宿区社会福祉事務所 1週間

興野町セツツルメント

神奈川県社会福祉協議会 2週間

横浜市中央保健所

1カ月(夏休み)

昭和医大附属烏山病院

1カ月

若葉寮

石神井学園

愛光学園

茅ヶ崎学園

みどりの家

1週間

武蔵野日赤病院

3カ月・1年

中学校(教育実習)

2・3週間

東京育成園

2週間

北児童相談所

"

石神井福祉事務所

1週間

保護観察所

1年間

立川市役所

1週間

立川福祉事務所

2週間

済生会中央病院

6カ月

国立リハビリテーションセンター

私立の結核病院

武蔵野療園

2週間(冬休み)

台東区児童相談所

"

都立北療育園

"

ベデスダホーム

1週間~10日間

国立精研・児童部

1年間

国立第2病院

島田療育園

横浜中央病院医療社会事業部

2週間

慶応大学附属病院

6カ月

三鷹福祉事務所

2週間

飯田橋職業安定所

"

品川児童相談所

"

横浜の登校拒否児の治療センター

東京都児童会館

鬼子母神病院

1週間

鉄道弘済会

"

その他教育実習に障害児関係の施設に行った

5. 実習について

イ。(実習先)

国立精神衛生研究所

ロ。(期間)

6週間・1年間

聖ルカ国際病院・医療社会事業部

2週間

白十字結核療養所

前期2週間

国立東京療養所

後期2週間・1年間

台東福祉事務所

後期2週間

福祉事務所

2週間

清瀬結核療養所

"

清里巡廻子供会

1週間

白金保育園

2週間

横須賀社会館

"

職業安定所

"

愛隣会

"

日赤産院

"

目黒若葉寮

"

上野児童相談所

"

保健所

"

青島養護学校

"

横浜児童相談所

3カ月

国立第2病院

前後4週間

光明養護学校

2週間

深川保健所

"

整肢療護園

"

村山サナトリウム

"

新宿児童相談所

"

渋谷児童相談所

"

杉並児童相談所

"

豊島福祉事務所

中央児童相談所

杉並福祉事務所

4年冬休み

練馬福祉事務所

日向弘済学園

3・4年春休み

弘済老人ホーム

3年夏休み

神田橋公共職業安定所

2週間

日本国際社会事業団

1年間

東京YWCA

1年間(ボランティア)

済生会中央病院

#### ハ．印象的だったこと

- 諸先生が研究に打ちこんでおられた
- 直接ケースを持たされた
- 非常に緊張した職場でこわい大先輩の指導を受けた
- 底辺の人達の生活と医療について見られた
- 産院の一部に重症心身障害児の部屋があり、はじめて子どもたちと会った
- 吉田先生（聖ルカ）の活躍ぶり
- 子どもに思いきりなぐられた
- 自殺寸前の青年のケースを担当させられた
- 貧困地帯の見学
- 医学知識がなく不安であった
- 肢体不自由児の涙ぐましい努力の毎日
- 精神障害者の収容
- ケースに対する治療者のチームワーク
- 療養所で結核の手術に立ちあった
- 保護家庭を訪問したこと
- 施設の職員が張り切っていたのに、福祉事務所の職員には生き生きとして仕事をしている面がみられなかった
- 労働行政はすばらしいと、新鮮な感激を覚えた
- 社会の裏面をみた
- 心と病気の関係
- 理論と実際の経験という点で勉強になった
- 家裁で非常に学問的に分析して仕事をしておられた方に教えていただいた
- 中央児童相談所のケースワーカーの1人の扱うケース件数が、あまりにも多すぎて、ケースワークが出来るか疑問
- きびしい職場の現実、子ども達の様子
- 電話がなりっぱなしで非常に忙しい職場だった
- どの施設でも丁寧に指導していただいた
- 教職は自分の力が批評されるので緊張した
- 一時保護所での面接、ひまわり学級の試験立合い
- 活潑に働いていらっしゃるワーカーが印象的
- 実際に障害児を担当させてもらったこと
- 人に教えることは恐ろしいと思いました
- ケースワーカーのお人柄、生き方そのものに胸をうたれた
- 同伴訪問、カンファレンス
- 社会を見る目が大きく広くなった
- 個性的な教育方法
- 生活保護受給世帯の実態を見聞したこと

- 聖ルカはきびしかった
- 専任職員として勤めていた先輩の指導力
- 生活と権利を守る会の人達と福祉事務所側の話合いがあったこと
- リハビリセンターでケースをまかされたこと。当時の国際リハビリ会議と共に学べたこと
- 福祉事務所ワーカーの献身的な働き
- 実習の名にふさわしくてよかった
- 子どもは誰れでも発達するものだったと思った
- 家庭訪問によるケースとの出会い、患者の老化傾向
- 高3担当で卒業後の進路指導、進路先を見学しました。社会へ巣立つことに皆真剣でした
- 福祉事務所で感じたことですが、人間定職につかせなければ駄目だということを痛切に感じました
- 脳性マヒ児の知能等がすぐれていた点
- 児童相談の先馳的な場所で良きスタッフに恵まれて多くの事を学んだこと
- 北療育園での体験は、頭の中で障害児を理解していたのを、障害児も同じ子どもたちだということを、体でうけとめられる様になったこと
- 重度の障害者の世話、食事介助、おむつ交換
- 患者層の特殊なこと
- 実習先のワーカーが相手に受け入れられる様子について
- 保育園でキラキラ輝く子どもの瞳
- 基礎が不十分で面接の時どぎまぎしていた
- 実務のむづかしさ
- 学外の先生方にふれることが出来た。実際の場での働きを体験できたこと
- 児相の家庭訪問に同行したこと
- 子どもたちとの共同生活、そのものすべて
- ケースワークの仕方、人間尊重
- クライエントの家に家庭訪問したこと
- 精薄児の直感のするどさ
- その頃はまだ児童館も少く、ずい分立派な施設だと感じたこと
- 東京のMSW協会の研修会に参加させてもらった
- 地域の老人家庭を訪問し、医療の実状を調査した
- 労働組合運動をしている人から内部の実情などについて聞いたこと
- 社会事業大学の先生と実習をともにしていたが、問題のとらえ方がかなり違っていたこと、社事大は深

刻であった

ニ. 困ったこと

- アル中についての訪問調査がうまくいかないで困った
- 他人の心がわからなかった
- 1人だったため相談相手がなくて不安だった
- 自分の不勉強
- 自分の未熟, 世間知らず
- 子どものため, 手芸作品を出すように云われたが紛失して出せなかった
- 問題の総合的判断が出来ないこと
- 教える側の実力不足で毎夜勉強で大変でした
- 実習途中病気になり, 充分実習が出来なかった
- 実習先で他の実習生とうまくいかなかった
- 短期間の実習では問題点を見付けても深く追求出来なかった
- 何をしてもよくわからなかった
- 専門知識が足りないと思った
- 涙もろく患者との面接ですぐもらい泣きして困った
- ケースをまかさされ, 技術面で苦勞した
- 実習先の先生より結婚相手を紹介されて断るのに苦勞した
- 実習先が初めての受入れで, 実習方法がわからず困った
- 学内で習ったことと, 実際とでは相当知識に差があったこと
- 勉強不足で学童保育ということをお母さん方に説明出来なかった
- 学問的に何も識らなかったことで, もっと勉強しなければとつくづく思いました。
- 子どもは好きだったが, 欠損家庭の子どもさん達だけに色めがねでみたり, 同情心で一杯だったりで本当に入りこめなかった
- 担当者に積極的な意欲がなかったこと
- 英会話がうまく出来なかった
- 教育内容の実際がよくわからなかったこと
- 行政の中でのケースワーク実習者の立場が明確でなくて「お客様」扱われたこと
- 23区内の福祉事務所が都より区に移管され実習先として受入れてもらえなかった
- 実習期間が短かすぎ(1週間)見学に終わったこと
- 私立の病院でMSWの悪い見本をみせられた

- ケースワーカーは受身的仕事だと思った
- ケースへの面接は, 実習生(児相)という立場で入りきれなかった
- 実習先が実習の目的を理解しておらず, ボランティア的に扱われたこと
- 千葉の市川まで通うのに2時間以上かかったこと
- 両者ともやっと慣れてこれから, という時に実習が終ってしまったこと(各2週間)
- 講義と実際面の違い
- 保育について深く勉強していなかったこと。保育専門学校の人達がよく勉強しているように思えた
- 事例を読んだり聞いたりしただけで, 実習の感じがしなかった
- 風呂釜をから炊きしてこわしてしまったこと
- 眠る時間がほとんどなかったこと(弘済学園)
- 事前連絡がよくなく, 最初少しとまどった
- 週1回であったため, MSW室の継続的な仕事の流れがよくつかめなかった。継続2週間位の実習をすればよかったと思いました
- 担当の課長がいわゆるお役人的な考え方の人でしゃくりいかなかったこと

6. 見学について

イ. 見学先

育成園	父子寮
愛隣会の諸施設	整肢療護園
聖ルカ国際病院	弘済会の種々の施設
国立身体障害者施設	蟻の町
職業安定所	浴風園
授産所	松沢病院
福祉事務所	八幡学園
養護施設	国立第一病院
教護院	東大社会科学研究所
少年鑑別所	新宿生活館
愛光女子学園	水上生活者
乳児院	家庭裁判所
児童相談所	北療育園
老人ホーム	白金保育園
母子寮(若葉寮)	都立養育院
精薄施設	厚生施設
救護施設	ロッテ工場
養育会病院	少年院
みどりの家	足立区の製靴工場

本木の保育園  
墨田区の児童相談所  
北児童相談所  
日立(中卒者の寮と学校)  
ソニー  
港区港湾職業安定所

七尾学園  
おもちゃ工場  
大塚福祉作業所  
白十字会  
ベテスタホーム

家庭を知らないため人恋しいのかといじらしくなりました

- 乳児院でのワーカーのお世話。教護院での指導者の方
- ソニーのきれいなことと、靴工場の騒音
- 学校カウンセラーの役割について考えさせられた。愛媛女子学園で先輩が頑張っている様子。若葉寮を見学してから、子どもへの見方が違ってきた
- 老人達に喜んでもらえたこと
- 養育院が老人ホームのイメージと違っていたこと
- かなり有名なおもちゃが、こんな零細工場で作られているのかということに驚いた
- 社会福祉現場のきびしい状態
- 職安を利用する労務者と話をしたこと
- 聖ルカ病院にケースワーカーが沢山いらっしたこと
- 港湾職業安定所、求職者の生活、アブレ、ドヤ生活作業現場など
- 家庭的な雰囲気の中で細かいところまで気がくばられていること

#### ロ. 期間

2年次に見学の時間があり、午後半日で廻ったように記憶している

#### ハ. 印象的だったこと

- 児童室の引出し式ベッド
- 施設で働いている人の懸命な姿に感動
- 訓練の様子
- 聖ルカ病院のケースワークの仕事
- 施設は老朽していたが庭は広く、草花が沢山咲いていたのに救われた
- 老人達が壁に向かって坐っている姿
- 老令になってからの美しい生き方はないのかと、疑問があった
- 現場で一生懸命働いている先輩達の姿
- 始めて見る施設なので、見ること、聴くことみな印象的であった
- 父子寮が母子寮にくらべてすさんでいた
- 専門教育を受けたワーカーが現場で多く必要としていると強く感じた
- 養護施設の子ども達が意外にのびのびと明るかった
- 日赤病院に入院中の重複障害児
- 説明を聞いて、表面的に見ただけに過ぎなかった
- 精薄でも一生懸命何か仕事をしている
- 老人ホームの施設は整っているが何とも云えないうら寂しさ
- 興野町という地域の特長性、はじめてみた学童保育の実態
- 医療事業にはじめて接して、現場のさまざまな問題を解決、処理していることに社会福祉科の活動の広がりを感じた
- 保育園を3~4人共同ではじめたのに、皆結婚して「私1人になってしまった」と楽天的に話されたこと。もっと小規模のものが多数点在して地域と結びついた方がいいと思った
- 精薄児施設で、乳児院から施設ばかりで暮している6才位の男の子が寄ってきて歌をきかせてくれた。

#### ニ. 困ったこと

- 養護施設の子が自分にだけ手紙をくれるように頼まれたこと、2~3人あった
- 目的地を探すのに苦労した
- クラス全員のため、予備知識を持って行く人が少なかった
- だんだん福祉科で通すことに厭気がさしてきた
- みどりの家セツルメントに卒業後入りたいと強く希望したが両親の反対で断念せざるを得なくなり、大変悲しかったこと
- 話題とすべきことの勉強不足
- 見学することは、相手方の生活を乱しているような気がする
- 色々な施設を見学したが、当時はそれほど興味がなかった
- 感覚的な印象しか受けられなかった

#### 7. 卒業論文

##### イ. 論文のテーマ(註)

昭和33年度卒業論文(56回 新制9回生)

公立託児所の一考察

平山 耶幸

川島 黛子

民生委員制度についての一考察

大久保雅子

労働市場における女子求職者の実態 — 公共職業安定所からみた — (共同論文)	弘津 敬子 亀井至利子 小出 富美 命尾佳世子 三鬼 信子 染治 規子 杉本 和子 牛島 倭子 山田とく子 山ノ内真佐子	現場実習記録Ⅰ (共同論文)	木村美江子 岡島 友子 羽生 具子 栗田 弘子 松繁 節子
老年金制度における社会経済的必然性	今橋久美子 中村 秀子 井上 惟子 石井 照代 金光 郁江 川井美地子 太田三保子 近藤みどり	昭和34年度卒業論文(新制10回生) 家出児童に関する一研究 (共同論文)	櫻村 和江 久保田信子 楠本いをえ 波尾喜久恵 進藤 千種 塩山 智子 田中 周子 山田 啓子 安井 宏子 森 恭子 中村 泰子 高見 恭子 宇井ケイ子 杉森 雅子
社会保障における「内在性」の所在	赤井 富栄 黒沢 純子 牧野 治子 赤沢 薫子 大坪 初美 片山 泰子 鈴木由喜子 廣瀬 淑子 南葉奈美子 下田 由美	日本の児童文化財 (共同論文)	中村 泰子 高見 恭子 宇井ケイ子 杉森 雅子
アメリカにおける婦人職業の変化 失業保険の意義と役割に関する研究	赤井 富栄 黒沢 純子 牧野 治子 赤沢 薫子 大坪 初美 片山 泰子 鈴木由喜子 廣瀬 淑子 南葉奈美子 下田 由美	児童の作文をとうして見る望ましい親子 関係 アメリカに於ける家族 (共同論文)	金子真知子 豊田 久代 真田 和子 上野 博子 正木 恭子
明治中期における内村鑑三の非戦論 昭和期セツツルメント (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	日本の児童文化財 (共同論文)	中村 泰子 高見 恭子 宇井ケイ子 杉森 雅子
医療保障の機構とその運営に関する調査 (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	児童の作文をとうして見る望ましい親子 関係 アメリカに於ける家族 (共同論文)	金子真知子 豊田 久代 真田 和子 上野 博子 正木 恭子
母と子の考え方 — 母の老後・再婚・職業を中心 として —	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	日本に於ける現代家族の問題 — 子供のしつけを中心として — (共同論文)	上野 博子 正木 恭子
保育所に対する再検討 (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	地域社会と青少年非行 (共同論文)	一瀬 良子 直井 道子 押木 信子 山本 克子 広地 節子 三原紀美子 横村 愛子
老人の欲求不満 (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	施設老人の社会とのつながり (共同論文)	広地 節子 三原紀美子 横村 愛子
住宅団地生活が児童に及ぼす影響 (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	ラーマクリシュナミッションの理想と活動 生江孝之「社会事業綱要」 — 我国における戦前社会事業論への考察 —	松尾 昌子
現代我が国における家族の問題 (共同論文)	足立 英子 安藤志津子 小林 俊子 稲垣 純子 稲垣 貞子 都甲 誠子 亀田 悦子 三橋 聡子 竹田美弥子 田中 達子 新見 圭子 田島 圭子 島飼 艶子 天野 珠子	秋田の社会事業史 日本の都市に於ける消費構造の類型に 関する研究一及び二 (共同論文)	藤林 絢子 石川 道子 倉持 節子 斎藤史都子 今橋 光代 井上 峰子
現場実習記録Ⅱ (共同論文)	天野 珠子	貧困 — パートタイマーに於ける家族類 型と階層間移動 (共同論文)	今橋 光代 井上 峰子

ビグー「厚生経済」論	山崎 浩子	近代家族における扶養 (共同論文)	上条 ふじ
細井和喜蔵著「女工哀史」の研究	伴 孝子		今岡 弘子
中小企業の存立条件	老沼 満子	テレビ・プログラムの一研究	加藤 万里
厚生年金保険制度の史的変遷とその性格	荒川佐智子	(共同論文)	岡田ゆかり
明治期における片山 潜	江藤 裕子		津田 忍
労働時間と労働者状態	八木 圭子		村松 松美
産業革命の進展と労働者状態	大田八千代	母子保護法の成立 (共同論文)	磯村 治子
(共同論文)	千野 幸代		富田 洋子
後進国における生活構造	本領加代子	日本における中小企業問題と集団求人	城石 房枝
—パキスタンにおける国民生活の実態—		(共同論文)	藤橋 啓子
精神薄弱児の雇傭の実態と将来一及び二	矢島スズエ		豊田 明子
			戸野恵美子
昭和35年度卒業論文(新制11回生)		マルクス主義哲学より規定された人間について	塚原 郁子
地域社会と児童の生活 (共同論文)	藤原 智子		
	結城 正恵	ジェーン・アダムスの社会思想	渡辺 昌子
	荒木紀久子	大正後期の社会事業 (共同論文)	狩野 洋子
	飯島 章子		吉田 武子
	久野 敏子		
石炭産業の構造変化と労資関係	林 由美子	昭和36年度卒業論文(新制12回生)	
改革後における農民層分解の地域的特質の問題 (共同論文)	佐藤 一子	最低賃銀制 (共同論文)	原坂 泰子
	高橋 一子		依田 加代
日本産業革命期における労働者状態	大町 聡子	C・ブースにおける貧困分析の視点と方法	堀 昌江
—「職工事情」の分析—	酒井 草子		
(共同論文)	矢澤 貴子	基督教社会事業への一考察	伊阿弥祥子
民間日雇労働者の労働力諸類型に関する研究 (共同論文)	岩本 政子	青少年犯罪と社会環境 (共同論文)	佐久 圭子
国家機能の展開過程 (共同論文)	重本喜世子		中村 政世
	興水 愛子	公的扶助とケース・ワーク(共同論文)	石原 郁子
	末延 厚子		並波 加代
盲人福祉の歴史的過程と問題点	華表 てる	広告に関する小調査	高根 紀子
相対的過剰人口論 (共同論文)	高橋 明子	ドイツ社会政策史年表	秋山 恭子
	山口 康子	リンデマンの社会事業思想	飼手 恵子
赤十字精神の起源と諸原則について	有福由三子	工場法における経済的機能	小松 玲子
満洲移民(開拓)と戦後の農業移民に関する一考察	西山 楓	日本の社会福祉事業におけるボランティア活動 —市民参加の可能性—	安藤 春海
—農業危機は移民で解決出来るか—		(共同論文)	小野沢優子
昭和初期の貧困に関する資料の分析	小川みどり	戦後の母子福祉—未亡人の雇用問題を中心として—ⅠⅡ (共同論文)	滑川 文子
生活周期についての研究 (共同論文)	岩瀬 隆子		明石 トキ
	坂下 清子		四方 禧子
明治期における生産力発展と労働運動	田中 絹枝		津 耀子
都市生活の構造と貧困 (共同論文)	服部 百恵	戦後日本における経営と労使関係	土村 彩子
	藤井 庸子	日本経済に於ける二重構造論	岩崎美穂子
	初芝 和江	(共同論文)	古川 節子
日本における工場法の制定過程	赤岩 和枝	メディカル・ソーシャル・ワーカーの現状分析	佐畑 恵子
(共同論文)	石毛 鉄子	(共同論文)	飯沢あさ子
			岡 みなみ

人民公社の分配制度 —それがもたらした婦人解放— 非行中学生に関する実証的研究Ⅰ・Ⅱ (共同論文)	具嶋 佳子 秋葉 則枝 蛭子紀久江 兼崎美秀子 笈川 安子 宇井 幸子 若菜 信子	政策編 Ⅰ " Ⅱ 財政編 思想編 慈善事業編 イギリス編	河原 宏子 藤井佐智子 本山昌子 富成 節子 吉田 紀美 高橋 恵子 秋山 弘子 吉田千枝子 久保 淳子
生活保護法の成立Ⅰ・Ⅱ (共同論文)	伊藤 妙子 太田 敏子 戸辺 和子 奥山 翠	恐慌論について (共同論文)	森 芳子
現代日本の配偶者選択における一考察 —母と娘の意識調査を中心として— (共同論文)	中西 恵子 小野 道代 田島 晴 上田 寛子	「資本論」第一部の弁証法的展開と二つの強力 「恐慌論」の方法について 世界恐慌発生の経済的諸条件と歴史過程 恐慌の必然性(マルクスの再生産表式) 過剰生産恐慌における蓄積と拡大再生産について	皆川珂奈江 久野 喬子 岩田 寿子 忠 ゆみ子
少年非行からみた家族の役割の一考察 (共同論文)	青木 敏子 藤井 明子 勝 和子	昭和恐慌 十九世紀末葉にいたる経済恐慌の歴史の概要	関山美穂子 柳町 蕃仍
長期欠席児童生徒の実態 (共同論文)	木田 節 阪本 節子 高瀬 叔子 寺内紀代子 松川 久子 武藤 陽子	農業恐慌をいかにとらえるか 独占資本主義以前の過剰生産恐慌の歴史過程 恐慌論の方法論 資本制生産の自然法則と強力	北村 知子 相部 耀子 中島 幸子 滝口 桂子
主婦と家事労働 (共同論文)	井上 宏子 北村 佑子 松本 敬子 宇多小路利	—標準労働日闘争— 十九世紀の周期的恐慌 メンデソソ「恐慌の理論と歴史」 第Ⅰ部 恐慌の法則 第Ⅰ章における方法について	矢内さだ子 上良 明子
昭和37年度卒業論文(新制13回生)		家族制度の変遷と親子関係 昭和期における保育所 —対象児童変遷と現状について— 精薄の親子関係 里親制度について—Social Work Year Bookを中心として— アメリカにおけるPsychiatric Social Workの歴史 日本におけるPsychiatric Social Workの発展	吉村 弘子 大塚久紀子 藤田 郁子 野口 佳美 宇都木由紀 竹下 真澄
大都市の所得階層と社会保障制度 (共同論文)	池田太津子 森崎富美子 新名紀久子 大石紀美子 須之内玲子 山内 紀子 矢野 美鈴 横井山恵子 吉広紀代子 浅利かの子 天藤 淑子 窪田 初海 浜野 暁子	婦人相談員の活躍 メディカル・ソーシャル・ワークの現状における諸問題と現代医療の中における今後の動向	塩谷みゆき 高倉 麗子



昭和39年度卒業論文(新制15回生)			
現代の家族における父親の役割	石塚日出子		伊藤みよ子
	田中 明子		黒田 絃代
都市の児童問題に関する一考察	藤森千代子		大竹由紀子
一横須賀市田浦地区を事例として一	原田 和子		梶 暉美子
(共同論文)	堀内 紀子	「資本論」の形成過程	(共同論文)
第一次大戦後における日本労働組合運動	古谷恵美子		伊藤千恵子
救護法の成立	渡辺 昭子		伊東弥栄子
米騒動と社会事業	大田 恵子	イギリスに於ける労働運動史	大石ちか子
方面委員の性格と活動	鈴木 惇子	(共同論文)	西本美佐子
賀川豊彦の社会運動とその思想	高橋富士子		太田 紀子
大正期における労働者状態	竹内 幸子		桜井 泉
石井十次の思想とその継承	山崎 祝	「資本論」における論理と歴史	渡辺 朝子
母子保護法	間野久美子	(共同論文)	西田 洋子
家内労働産業の推定と考察(共同論文)	梶井 尚子		関 輝子
	柳 宣子		和田 幸子
	吉島 輝代	昭和40年度卒業論文(新制16回生)	
最低賃金制の若干の問題とその検討	福永 昭子	日本医療社会事業史	小川 武子
(共同論文)	石井 瑞代	里親制度, その日本的展開(共同論文)	松林 静
	三橋 敦子		西郷 祥子
	宮崎ひろ子	共稼ぎ婦人の生活時間について	羽柴 玲子
	佐藤 洋子	(共同論文)	繁村 和子
	下田沙英子	家庭に於ける母親の役割	福田 道子
	高倉 恭子	現代日本に於ける医療社会事業の課題	西村 節子
	安平貴美子	戦後の母子福祉に関する一考察	野副 博子
	古川南海子	一法律生成過程を通して一	矢頭 敬子
英国産業革命期における労働者状態	山上真須美	(共同論文)	
(共同論文)	山下 希	重症心身障害児対策の現状	重藤 邦子
全日自労の歴史的分析	円子 寿子	養護施設の諸問題	橋田 映子
(共同論文)	松元 汀子	一養護技術をめぐっての保母のあり方一	松井 史江
	松浦みどり	(共同論文)	
「部落」一差別をどう考えるか	日高真智子	母子福祉に関する一考察	荒川千恵子
(共同論文)	沖松 宣子	一港区母子世帯調査を基にして一	千葉 訓子
児童養護についての一考察	橋本 頼子	(共同論文)	石黒 直栄
一養護施設を中心として一	林 沙千子		興石 勝美
(共同論文)	加藤 真弓		国富 治子
	川崎 正枝		高桑 聡子
	牧山 淑子		平田 紀美
	宮林久美子	老人病に対するリハビリテーションと福祉的予防施策	新藤 靖子
ユダヤ人の家庭における子供の教育	尾関 和子	売春防止法成立史と社会福祉学の一視角	早野 律子
一その社会学的研究	河野 裕子	(共同論文)	合田 道子
夜間中学校	福山 優子	中小企業における労働組合(共同論文)	国保 典子
(共同論文)	板垣 薫		斉藤 道子

現代社会における家庭の意義	沼田 紀子	昭和41年度卒業論文(新制17回生)	
(共同論文)	鈴木 叔子	身体障害者雇用に対する社会の関心	白石 明子
「身体障害者福祉法」成立過程の一考察	並木 道子	(共同論文)	船山三都子
(共同論文)	土屋 幸子	養護施設の諸問題	北川 典子
初期におけるマルクスの「人間」について	中村いつ子	— 養護技術を中心として —	桑原 史子
ライ病治療者のリハビリテーション	内藤 里江	(共同論文)	
婦人の再就職	青山 峯子	情緒障害児短期治療施設に関する一考察	竹間 史子
(共同論文)	丹沢 秀子	少年非行と親子関係	高丸 康子
日本農業の危機的段階における社会保障	津田 泰子	日本における健康保険の成立とその発展	高橋 広子
の意義と問題性		一戦前における日本の健康保険発展史一	
女子パートタイマーの研究	岡田 恵子	東京都に於ける母子寮実態調査	小島 泰子
— その地位と今後 —	岡村 靖子	婦人労働者と職場保育所	重松 敏子
(共同論文)	大久保小美子	日本における初期占領政策	庄野久美子
インド社会事業史概観	和佐野文子	方面事業 — 社会事業に及ぼした影響 —	大坪 栄子
(共同論文)	袴田英美子	(共同論文)	神麻 紀子
1920年代における日本の社会政策	高坂美和子	母子寮における児童養育の問題点	清水 淳子
そのⅡ — 労働運動と社会政策 —	大島 玲子	(共同論文)	須賀 陽子
(共同論文)	青木 敏子	現代の母子寮と将来のあり方について	横尾トヨ子
資本論における方法の研究(共同論文)	西原三奈子	(共同論文)	吉原 俊子
1920年における日本の社会政策	川俣真知子	都市化と共働き家族	井上多賀子
そのⅡ — 独占資本と労働者状態 —	小方 淑子	イギリス社会事業史概観	(共同論文) 山田美津子
(共同論文)	瀬川 栄美	工場法成立過程	吉野 文子
日本セツルメント史一考察	副島由紀子	女性いかに生くべきか	水之江爽子
— 東京帝国大学セツルメントの分析	和田 正子	小売商業の近代化について(共同論文)	下坂 裕子
を通して —	(共同論文)		石崎 敦子
生活保護法の動向とそれをめぐる運動	千野 陽子		高橋 信子
(共同論文)	松木 順子		山本 衆子
	大須賀央子	スウェーデンの労働関係法について	密田 朝子
1920年代における日本の社会政策	田村 昌子	民生委員制度についての一考察	石崎 典子
そのⅠ — 独占資本と恐慌 —	辻 癸未子	山谷の児童問題	(共同論文) 萩原 玲子
(共同論文)			伊藤 玲子
児童手当制度に関する一考察	後藤真智子	タイと日本の家族制度の比較研究	田辺 敦子
(共同論文)	佐藤不二子	少年非行と家族問題	佐藤賀寿子
保育所づくり運動について	戸田 有子	— 地域における非行問題の研究 —	
キャンプと児童	藤城 長子	1920年代における日本の労働運動	藤本 由子
(共同論文)	小山 京子	— 金属、機械工業に焦点をあてて —	高野 洋子
国家独占資本主義論	鎌田 豊子	(共同論文)	山形みな子
歴史観について史的唯物論(共同論文)	佐々木美津江	大都市における失業者問題(共同論文)	梅本千容子
	松井 重子		吉沢 章子
大都市流入青少年の職業移動問題について	森井 泰子	東京都母子寮実態調査報告(共同論文)	梶浦しげ子
(共同論文)	齊藤田鶴子		谷本 光代
		山村の生活構造 — 岩手県下閉伊郡岩泉	永倉安基子
		町を事例として —	(共同論文) 中川 知子

戦後日本の社会保障への接近 —医療保障政策と日患の闘い— (共同論文)	大野 治子 吉田 迪子 星野美保子 三村 泰子	小零細企業の労働移動 (共同論文)	三橋マサ子 藤井 節子 石丸千代里
母子保護とその対策	上野 悦子	零細兼業農家における経済構造の分析と その動向	上石 聡子
中小企業の労働組合研究 —いわゆる合同労組を中心として— (共同論文)	浜 由美子 笹口 弘子	日雇労働者の分析 (共同論文)	柿木 マサ 上田 弘子 前田 彰子
生活保護層の構造 —北欧における研究から—	岡田 和子	老人のリハビリテーション イギリスにおける公的扶助について —貧困と貧困層—	川崎 節子 田中 怜子 中沢 一恵 三好 幸枝 坂口美智子 篠原 弘子 石原 淑子 成田 篤子 今沢 原子 山本 保子
昭和42年度卒業論文(新制18回生)		ソーシャルワーク実践の序 何故仏教が必要か 大正デモクラシーと社会事業 我国の近代化とその初期について 景気調節期に於ける農村労働力の異動 「売春」—その理念と実態— わが国における鉄鋼業 (共同論文)	
児童福祉における保育理念 アジジの聖フランシスについて —その生き方—	久慈 泰子 中島田啓子	都市における住宅問題 —公営住宅を中心として— (共同論文)	
在宅精神薄弱児をもつ親の意識 —横浜児童相談所の窓口を通して— (共同論文)	石沢 紀子 西 睦子	労働災害による職業的リハビリテーショ ン (共同論文)	木原 直子 坪井 美樹 栗本 幸子 飯野智賀子 渡辺 英子 林 敦子
精神障害者の福祉に関する一考察 青少年の非行問題 (共同論文)	佐藤 春江 星野 和子 勝又 房子 長沢悠生子 野田 俊子 楊井 和枝	婦人と組織化 —地域社会における婦人 組織活動の現状と将来 (共同論文) 老人福祉対策に於ける現状及び諸問題 日本資本主義における農業政策の歴史的 考察 朝日訴訟の歴史的意義 (共同論文)	
企業におけるソーシャル・ワーカーの機 能と役割 日本の精神衛生史 老人の職業問題 少年非行と家庭に関する一考察 更生保護のための地域共同組織化活動に ついて	宮寺 幸子 菊地 洋子 嶋 結子 岩本 岩子	少年非行と家庭環境 昭和43年度卒業論文(新制19回生)	安部 節子 北村 肥子 栗本 暁子 松尾須賀子 奥 敦子 河野美代子
現代家族の親子関係に於ける一考察 (共同論文)	青沼 智子 川又梨枝子 田畑 宏子 敵本 千寿	日本人における理念と行動の「ずれ」に 関する一考察 現在の母親就労についての一考察 (共同論文)	
戦後婦人労働問題 —女子特別退職制度をめぐる— 老人福祉法の成立過程 現代に於ける家族の崩壊 —児童相談所 に見られる母親の家出の一考察— 精神薄弱者の実態とその社会復帰 (共同論文)	桑名 清美 半沢 京子 古川 広恵 神代 和子 小穴 全子 小野 菫		青山みどり 堀田 陸美 飯野美峰子 北中美和子 佐々木幸枝 田村 房子

イギリス社会保険の成立に関する研究	佐藤 正美	昭和44年度卒業論文(新制20回生)	
里親制度に関する一考察	折井 和子	社会福祉の対象規定に関する一考察	丸山富美子
アメリカ社会事業成立に関する一考察	草野 智子	現代文明と社会福祉における私考	松本 文子
(共同論文)	細迫 光子	公害にみられる都市問題 (共同論文)	林 伸子
共稼ぎ家族に関する一考察	菊地 淑子		松本 和子
イタイイタイ病からみた公害についての一考察	広田 恵子	瓜生岩子の研究	渡辺 寛子
		一その児童観と施設設立過程一	
職親制度の現状について	樋口 道子	家事調停への一試論	片桐喜美子
地租改正施行過程における備荒儲蓄法	堀上みさ子	老後の生活保障 一老令年金制度を中心	白井 治江
差別をなくす人間教育	田村 晴代	とする老令保障の現状一	
「福祉国家論」イデオロギー批判	関根 由子	人間の価値についての序論的考察	荒木香久子
中小企業労働者の組織と実態	高尾 敦子	現代の保育問題に関する一考察	景山 早苗
(共同論文)	篠田 昌子	(共同論文)	高橋 通子
女子労働と現代「合理化」	広木 道子	老人の社会的在り方に関する一考察	打尾 睦子
老人福祉法に関する一考察	宝月 久子	老人問題に関する一考察	宮原瑠美子
夜間中学生 (共同論文)	福本 和子	都市化における児童の遊び(共同論文)	井上千寿子
	星隈 昌子		坂本 麻子
家庭相談の一試案	井元美智子		滝 和子
一家族、家庭機能を中心に考える一		地域の老人	藤原 令子
言語障害 (共同論文)	宮本 恵子	民営社会福祉事業の財源と公的責任	笠松 栄枝
	山本 裕子	(共同論文)	西村ひろ子
女子パートタイマーの現状と問題点	坂井 佳代	現代における子どもの遊び仲間集団につ	北野 富代
(共同論文)	相川 晴美	いて	
児童手当についての考察	斉藤 恵子	児童施設における養育ホスピタリズムを	山仲 恵代
創設された自作農について	清田 英子	めぐって	
日雇労働者健康保険 (共同論文)	青木 英子	クリスチャンークリスチャン生活を中	杉本 和恵
	斉藤 知子	心にして	
ジョン・ラスキン	久保 育子	老親の扶養と家族関係の変化に関する一	岩村 朋子
特殊教育の発展とその教育的意義	北原美代子	考察	
情緒障害児をめぐる社会的役割	細田 克子	ボランティア活動に関する一考察	白銀 幸子
自閉症児の処遇に関する一考察	宮武 教子	一婦人ボランティア活動一	渡辺 正子
出稼ぎの失業保険受給問題(共同論文)	木室 明子	(共同論文)	
	南条 万里	米騒動とその社会背景についての一考察	四方 泰子
重症心身障害児(者)を持つ家庭におけ	弘中 公子	社会福祉の対象把握について	佐藤 順子
る問題 (共同論文)	大門登美子	一現代的対象規定に関する一考察	
病院内におけるメディカルソーシャルワ	岡崎 爽子	精神薄弱児教育における生活単元学習に	松井真智子
ーカーの位置づけ (共同論文)	鈴木 舟子	ついて	
わが国における身体障害者雇用の歴史と	太田尾和子	精神薄弱者と労働	安倍 敏子
社会的意義	田村のり子		中曾根美智子
社会保障闘争における全生連運動の役割	竹田佐和子	日本の最低賃金制	高橋ひとみ
		捨子を通してみた子供の生活に関する一	望月まゆみ
		考察	宇都 栄子

都市と人間		大草 房子
児童観の史的展開	(共同論文)	中西 洋子
		佐本 松子
		田原 京子
自閉症児の治療		杉崎 由理
人権について		谷津 正子
70年代の福祉政策について		植木八千代
真田是著「現代社会学と社会問題」		伊藤 純子
第Ⅱ部 福祉理論と社会福祉理論をめぐって		
老人問題の発生とその背景(共同論文)		西谷 啓子
		石川 弘子
疎外に関する一考察 (共同論文)		富岡 美恵
		加藤 直子
地域民主主義に関する一考察		原本 博子
現代における改良闘争に関する一考察		畠山比佐子
ソーシャルケースワークに関する一考察		田中 景子
(共同論文)		津田 桂子
日本における戦前の非行少年保護制度		丸子 初子
施設養護の歴史と現代的課題		杉山 滋子
基本的人権		中沢みち子
老人の就労と生活		山賀 直子
家族における児童の地位に関する一考察		尾上 則子
情緒障害児に関する一考察		知識 優子
一情緒障害児短期治療施設の実態		中野 桂子
(共同論文)		
過疎地域における総合センターの役割		大竹 真子
(共同論文)		白木 公子

ロ. 共同者  
あり 67%    なし 30%    無回答 3%

ハ. 指導教授

松尾 均	21	松本 武子	12
一番ヶ瀬康子	22	吉沢 英子	3
吉田栄(前田)	1	磯野 誠一	2
松島 正義	1	磯野富士子	5
江口 英一	11	田端 光美	3
菅 支那	1	小島 容子	5
米地 実	3	向山 耶幸	3

ニ. どのようなことに苦勞なさいましたか  
 ● 職安の求職者カードの分析, 勉強不足で苦勞した  
 ● 資料集め, 資料の整理, 資料不足

- 老人との面接に苦勞
- 昭和初期—戦前の資料がほとんどなくて図書館をさがした
- 家族論を卒論にしたが漠然として焦点がボケないように苦勞
- 結論つかみきれなかったが, 論文をまとめる訓練になった
- 共同者との協調
- 調査資料の集計
- テーマより結論を出すことに苦勞
- 指導時間が充分でなかった
- あまり苦勞なし
- 実習が多く卒論の調査の時間がとれなかった
- 老人福祉問題に関して指導者がおられなかった
- 暑い時期に面接に出かけた
- 在学中3年間, 多少なりともテーマとした調査研究にかかわりをもっていたので苦勞はなかった。歴大な資料をいかにまとめて行くかに苦心した。
- 取上げた問題が特異だったためか, 直接の実際的な指導者がいらっしやなかった
- 勉強が身につけていないので, 一体何を書いたらよいか, から悩みました
- 現代社会に於ける父親の役割りという題で, やはり母親にも焦点をあててとらえてみたかったという後悔
- 共同者が多すぎてまとまらなかった
- 資本論が歯にたたず残念でした
- 2人の共編を関連づけること。理論的に弱いため本を読むのに追われて期限ギリギリになってしまった
- 統計資料集めに労働省, 東京都等に行きましたが, なかなかいい資料もなく, 仮説実証のためこじつけもあったりして満足のいくものでなかった
- 世帯の収入調査を1人で戸別訪問したため夜遅くなり, 主旨を説明して話をきくのが大変だった
- ライ病患者さんの問題でしたので, 実際に園を訪問したり……日本はその点では末期的なので東南アジアの諸国をまわり現実的な処遇を見学した。又WHOの方, 外国のDRとの研究の折, 語学力が乏しくて苦勞した
- 先生がお忙しくて仲々お会い出来なかったことと, 1人1人の人物を探し出して訪ね歩き, 資料を集めたこと
- 日雇い労働者の調査に何度か事務所や集りの場に尋

ねることが出来ましたが、生活の苦勞もあまり知らない者が人の生活、生き様をのぞいているような気がして気がひけました一方、力強さ、明るさに励まされもしました

- 身障者雇用経営者側に対する調査や数が集まらなかった点
- 日本における初期民主的政策というテーマで資料集めに国会図書館に通ったり、学校の地下にねむっていた戦前からの「中央公論」など読みあさってまとめました
- 本来自分が興味があったテーマとは違い、指導して下さる先生が居ないため、止むを得ず共同者として参加したため、中途半端だったと後悔している
- 「権利としての社会保障」という抽象論を選んだため、深い研究論に欠けたし、共同者にも迷惑をかけた
- 論文を書くこと、文章の組み立、ことばの選択が苦手だったので、実習、調査の後文章を書く段になって苦勞した
- 締切りに間に合わせることに、論文の書き方構想がよくわからなかった
- テーマが広すぎてまとめるのに苦勞したこと
- 自分の言葉で書くことに努めた
- 秋田県角館まで農家10数戸の調査に行きましたが予備調査もなくぶっつけ本番でしたので思う様に調査が進まず、また結果も虫食いの状態でまとめるのに苦勞した
- アンケートの質問事項が適切でなかったように思う
- 資料集めに時間がかかったし、他人の「説」のよせ集めになってしまった。もう少し自分の意見をきちんと提示したかった
- 短期間にまとめなければならなかったため、じっくり考えたり、実際に調査をするなどができなかった
- 老人問題について考察したが、自分もいつか老人になるという認識が薄かった
- 学科のカリキュラム問題のあった時期で時間的余裕がなかったこと
- 丁度紛争中で落ち着かなく、不十分なものしか書けなかった
- 社会調査ができず書物の上だけでの文になり、研究論文とはとても云えないものでした
- ストで取り組んだのがおそく、短期間で仕上げなければならなかったことと、資料を集めるためにある

機関に聞きに行ったところ、**秘**だからとあまり詳しく教えてもらえなかったこと

- 学科の改革時で問題のとらえ方に対する転換など、学問に対してどう、いかに、何を学ぶべきか全体で苦勞した。そして自分の勉強の仕方のおいまいさも知ることができた

## 8. 研究会活動について

研究会又はクラブに	研 究 会	ク ラ ブ
入っていた	46%	72%
入っていない	44%	22%
無 回 答	10%	6%

### 研究会名

- 社会心理研究会
- 経済学研究会
- 子供会
- 縦の会の研究会
- 松尾先生の資本論研究会
- 江口先生と調査に参加
- 聖書研究会
- 社会思想史研究会
- 一番ヶ瀬先生を囲んで朝の読書会
- 家族問題研究会
- 近代日本とキリスト教研究
- 社会問題研究
- MSWの会
- 興野セツルメント
- 浅草研究会（東京の大学の社会学科の人達との研究会）
- キリスト教社会事業研究会
- 田浦地区の児童福祉に関する基礎調査
- 「東南アジアに於ける文化交流に果す留学生の役割」
- 中国研究会
- 憲法問題研究会
- 日赤の奉仕団
- 早稲田奉仕団で「人間問題研究会」
- 東大社会学部との「臨時工と社会工」に関する研究
- 「ワンマンパス」研究会
- 法学の基礎読書会（磯野先生）
- 朝日訴訟を守る会

### 9. クラブ活動

- 国際問題研究会
- ユネスコクラブ
- 茶道、華道
- 独語研究会
- カメラクラブ
- ゴルフクラブ

バスケット部	古典音楽鑑賞会
旅行研究会	テニス
コーラス	バレーボール
子ども会	卓球部
社会問題研究会	辺地研究会
山岳部	セツルメント活動
写真部	放送研究会
学生YWCA	箏曲研究会
美術クラブ	映画研究会
僻地巡回子ども会(若葉子ども会)	
リーディングサーヴィスグループ	
テーブルライブラリーサーヴィスグループ	
ガールスカウト・ブラウニーの指導	
デンマーク体操部	弦楽合奏団
似島ワークキャブ(身障児)	
アーチェリークラブ	みしょう禅会
マンドリンクラブ	児童問題研究会

#### 10. 学生時代の友人について

イ. どういうきっかけで親友を得ましたか

親友はいない

1年の時英語のクラスが一緒

入学式の時隣

クラブ活動が一緒

寮生活で意気投合して

ミッションスクール出身者が集まった

ボランティア活動で

同じ級

自治会活動をともにして

同じ研究会に属して

卒論の共同者

通学の同じ電車

附属出身, その頃の友達

オリエンテーションの時

家が近所

いつの間にか

高校からのクラスメート

アルバイトが一緒で

大学セミナーハウスで他学科の友人を得た

学科の改革などを通して

ロ. 現在も交際しているかどうか

a. ときどき合う 63 c. 年賀状のみ 15

b. 文通 39 d. クラス会の時だけ 7

e. 全くなし 3 f. たまに合う 1

その他, ときどき電話し合う 1

しばしば会い困った時はいつも支えてもらう 1

#### 11. 学内のいろいろな会について思い出すこと クラス会について

- 意見の交換が出来た。自主性が養われた。時折小遠足をしたこと
- まとまりがなかったと思う
- 1年最初の会を新宿御苑でして楽しかった
- クラスの中にも安保などの学生運動に授業を休んで参加する人や, 無関心な人など, いろいろのタイプがあった
- おもしろくなかった。もっと深い心のつき合いがほしかった
- クラス会で席の隣り合った仲間と読書会をしようとする世論を貸りに行った
- 積極的にクラスの中に入れてなかったので, 色々な形で話し合いの機会があったのに, ほとんど発言もせずのままでしたが, クラス会はよかったと思います
- 1年に入学当初, 私と数人が幹事で奥多摩の方へ, 1泊のミーティングを計画したこと
- 全体としてはまとまりに欠けていたが, 反面各個人はそれぞれに自分のしたいことが出来るクラスだった
- 自主的に開催したクラス会
- 3年まではなんとも思わなかったが, 4年で紛争があって, 半年あまりクラス会だけのために通学したことでクラスメートとのつながりが深まった

#### 縦の会について

- 他学年との話し合いが出来ました
- もっとひんぱんに持ってほしかった
- おしつけない感じをもちました
- 積極的になされなかった。よく講演会を計画してもあまりもり上らなかった

#### 自治会活動について

- 選挙管理委員にさせられ役員の選挙に協力した
- 学園生活自治会を大学自治会に改組するため特別委員会委員になった
- 安保デモへの参加
- 一部の人の場であったように思う
- 同じクラスから友達が会長及び副会長に立候補して当選した

- 生協設立委員会のメンバーとして、消費組合、在学中に生協が設立されたこと
- 皆の前でも平気で意見を述べる程、正義感にあふれていた
- パンフレットにいい加減な字が多く、自分達の言葉や思想がなく嫌気がした
- 当時の社会情勢、特に教育面での問題を学んだ
- かなり派もあり一部ではさかんでした。社会全体の風潮が反映していたのでしょう

#### 寮舎の会について

- 各系の会合があり、生活の合理化が身についた。週に一回あった
- 2年間の寮生活、社会福祉学科が全体の $\frac{1}{4}$ をしめていた晩香寮のミーティングは、わが学科の者が最も発言が多く、革新的で寮監先生もお困りでした
- 親睦的な会でした
- 自治寮へむけて話し合った

#### 軽井沢の生活

- サイクリンググループの一人が自動車事故で亡くなり、自分達のおこした行動の責任を痛感いたしました

- どの会も身近に感じられなかった

#### 12. 目白祭等に関して思い出すこと

##### イ. 目白祭

- 3年の時社会調査を分析して発表した
- 児童福祉の中の不良文化財について研究発表
- クラブ活動のみで授業の印象が薄い
- 研究発表の内容がうすかった
- 授業中に目白祭の準備をされていて叱られたことがあった
- クラス全員で調査活動をした
- 年々おもしろくなくなった
- 食物学科の料理、フルーツケーキがおいしかった
- 家内労働に関する研究発表のためサンダルの内職家庭を調査した
- 準備期間がたのしかった
- ダンテの神曲を5, 6人で読み徹夜でまとめて好評であった
- クラブの展示
- 自治会バザー
- 他の回生はよく団結して研究発表していたが、わが

回生は一度も経験しなかった

- 忙しかったことだけ残る
- 印象に残っていない
- 戦後日本経済の歩みにとり組み、経済白書をよみ通す
- 余り関心なかったが、卒論を発表するため、おそくまで図表をつくる
- クラブ合宿して討議、準備した
- 殆どノータッチ、今になってどうしてだか不思議である
- 最後にまとめて壁にはるのが大変だった
- フォークダンスはおもしろかった
- クラブで毎年テーマを決めて取組んだ、もっとも楽しかった生活です
- 実行委員になり徹夜で頑張った
- 遅くまで準備して、親が心配した
- 準備期間が短かかったように思う
- 積極的に参加しなかった
- 前夜祭
- 他の科やクラブの活動がよくわかり興味深かった
- セツルメントの活動をアピールする為に展示物を準備
- 余り積極的に参加したわけではないので、詳しくおぼえていないがごちんまりとしてつまみが足りないような気がした
- 福祉国家論のテーマでやり、他大学の学生からつまんだ質問をされたこと
- クラブの研究発表で、パネルを作ったり、原稿を書いたり、発表の内容をまとめ、検討に苦勞したこと
- 委員長をつとめたので、特別に思い出深い、他大学のようにイデオロギー的でなく、アカディミックであり、中間色のものであることが特色でした
- クラブ活動で弦楽演奏したこと
- 苦勞して発表にこぎつけた研究のこと
- クラブの発表、2年生のときセツルの地域の生活状態に関して、分析が充分出来てなかったと思います
- クラスでは内職について、学生社会学会で発表しました。総評で内職物品を借りてきました
- 読書会の段階まで参加して、あとは参加しなかった
- クラブに入っていなかったが結構楽しかった
- 1年の時わかば会の活動を発表した
- クラブを通して講師をお願いしたり、展示物を書いたり

- 無認可保育所について調査発表して本にまとめた。大変な作業であったがよく協力出来たと思う
- 高校時代のもみじ祭にくらべ、ずっとつまらなかった
- まだセクツ的争いも表面化せず、一般学生もかなり参加していた
- 他の大学祭にくらべ、あまりにももり上りがなかったように思う
- 生活保護に関する調査のため、夏休みを返上して学校に通ったこと
- 案内係をして楽しかった
- “遊び場”の調査発表をした。科の研究発表のときに高田馬場にあるバタヤ部落のアンケート調査をした時、現実にはふれショックであったことを覚えている
- 狭いところにごちゃごちゃ展示があった
- サークルや学科として参加したが大学全体のまともりに欠けたような感があった
- クラブの方で参加して、学科の方はあまり協力できなかったが、自分たちでは討論を重ね充分なものを発表したつもりだったが今考えるとおそまつと思いはづかしい

#### ロ. その他の会

- 社会政策学会で卒論の一部を発表した
- 卒業生のケースワーカーを招いて現場の話を書く会をし有意義であった
- 泉祭、始めて寮生の祭を計画し夜講堂で開催した
- 音楽会、芦野宏のシャンソンリサイタル

#### ボニージャックスリサイタル

- 英文科の英語劇
- 浅草社会学研究会の発表を五月祭で行い印象深い
- 卒論の発表会で上級生に感心した
- わかば会活動、僻地の巡廻子ども会で地元婦人会や青少年と交歓会をしたり、資金集めの音楽会を催したことなど
- 五月祭に共同参加し、石川島播磨の下請企業の実態を調査して理論化したこと
- 「婦人労働」から「保育」へと入り、クラスの有志とセミナーハウスで何度か研究会を持ったこと

#### 13. その他の行事で思い出すこと

##### イ. 学内生活

- 軽井沢の合宿、自然は良かったが全課程お説教的で

嫌いでした

- 成瀬先生のご命日
- インドのインディラ氏の来日（大学に来校された）
- 英文科主催の英語劇
- 北海道への修学旅行は楽しかった
- チャリティショーでダンスを計画、菅科長の反対でN響のコンサートに切替えた
- 子ども会で岩手に巡廻に行った
- 写真部の対外展に寝食を忘れる程頑張った
- 何とかして行事をさぼろうとしていた。今思うと惜しいことをした
- 入学後上級生がいろいろ説明してくれた
- 実倫の話は今になると為になっているが、当時は眠かった
- やはり目白祭、とても苦しかった（委員長をつとめた）
- 学生食堂の雰囲気
- あわてん坊で必修課目をとらずにいたこと
- 1年の始め合唱団に入り2つのステージに出ることが出来て、木下保氏の指揮のもとで歌った感激は忘れません
- 軽井沢の寮での合宿、クラブ活動の合宿
- セミナーハウスを利用して、ゼミで合宿したこと
- 成瀬講堂での入学式
- 成瀬先生の記念日のたびに食堂で豆大福が出されたことがなつかしい
- 授業も数々印象深いものがありましたが、やはり友人との付き合いは貴重であったと思います
- 成瀬先生の〇〇記念行事などありましたが、なにか別世界のような気で興味もなかった

##### ロ. 寮舎生活

- 始めに入った寮が建替えでとりこわしとなり最後のパーティーをした
- 新しい寮でアメリカの学生と同室、楽しい思い出
- 入学、卒業、歓送迎会、クリスマス祝会
- 寮の給食係の女性の自殺
- 女の城とはこんなものかと
- 季節ごとの催しもの、早朝しょうぶを見に行った
- なつかしい思い出
- 他の大学の寮生との交歓会
- お集り、お遊びなど若者の集りでおもしろかった
- 体育館落成記念で全寮で仮装行列をやった
- バレーボール大会

- 消火訓練
- 寮独自の言葉、寮内での七夕祭り、縦の会などでケーキなど食べたことを思い出す
- 寮祭、他の大学寮の方を招いてパネルディスカッションの司会、劇、講演会（平岩弓枝氏のものなど）
- お腹がすいて夜同部屋の寮友とおにぎりを食べたり田中屋で欲求不満解消したり
- 新入生歓迎ハイキング
- 部屋でのダベリング
- 4年間の生活でしたので寮生委員もやりました。寮会は生活と結びついたので皆割合積極的に物を考え、先輩、後輩色々な人とのふれ合いでずい分勉強になりました。寮監先生の生徒一人一人への発言に対する真剣なまなざしや態度は就職後にも見習わせていただきました
- 避難訓練、泉山寮の生活は割合、合理的だったように思います。部屋換で
- 秋一年に一度寮の先輩を招いて寮又は桜楓会館でパーティーを開いたこと
- 行事の多いところでした。寮生同志の融和をはかるためでしたが強制的なところもあったようです
- 寮生委員会が印象的、寮によって考え方や行動の仕方が全く違っていったように思う
- 寮の生活がとにかく楽しかった。色々のパーティーがあり、食事を作り、歌を唱い、ダンスをし、勉強で苦しみ共に生活をして楽しかった
- いづみ祭で寮を開放し、もぎ店などが楽しかった
- 寮生委員に選ばれ、他の寮に説明に行き、ずい分苦労したことを思い出す
- 卒業生の送別会で部屋ごとにだしものを出すのを同室の人達と考え練習するのが楽しかった
- 寮監の目を気にしながら、夜遅くまで恋愛やら人生やらを話し合ったこと。新入生歓迎の会、寮祭、クリスマス会など楽しい思い出です

## C 卒業後について

### 1. 職歴について

イ. 今までに就職したことがありますか

就職した 86名  
就職しない 15名

ロ. 就職先名及び期間

- 日本不動産研究所 2年間
- 精神衛生ケースワーカー 1年間

	6年間
● 家政経済助手	13 "
● 公立中学校	13 "
● 中学校教諭	11 "
● ケースワーカー	4 "
● 医療ケースワーカー	4 "
● 千葉県婦人児童課主事	3 "
● 出版社編集	1 "
● 社会福祉学科助手	1 "
● 中小企業	1 "
● 損保保険会社人事課	3 "
● 精神衛生普及会	3 "
● 保母	3 "
● 事務員	7 "
● 雑誌編集	1 "
● 社会福祉主事	5 "
● メディカルケースワーカー	2 "
● 国民経済研究協会	2 "
● 研究補助員	2 "
● 損保会社員	3 "
● 医療ケースワーカー	3 "
● 日本国際社会事業団呉事務所	3 "
● 鉄道弘済会北海道支部, 社会福祉部	4 "
● 地方公務員	4 "
● 石油公団調査課	4 "
● 早稲田奉仕団書記	8 "
● 福祉事務所ケースワーカー	1 "
● 社会福祉主事	2 "
● ケースワーカー	7 "
● 福島県立郡山女子高校教諭	11 "
● 北福祉事務所	10 "
● 聖路加医療ケースワーカー	1 "
● 新聞社臨時	3 "
● 家政経済学科助手	8 "
● 児童福祉司	6 "
● 社会福祉協議会	3 "
● 養護施設指導員	3 "
● 日赤産院医療社会事業部	2 "
● 事務員	3 "
● 都立病院ケースワーカー	4 "
● 医療ケースワーカー	5 "
● 福祉事務所ケースワーカー	6 "
● 鉄道弘済会事務員	12 "
● 図書館司書	

- 施設書記 7年間
- 医療ケースワーカー 2 "
- 鉄道弘済会・社会福祉部 10 "
- 私立幼稚園保母 1 "
- ケースワーカー 4 "
- ISSのケースワーカー 6カ月
- 中学校特殊学級の担任 4年間
- 都労働局(渋谷職安) 1 "
- 東京都民生局 10 "
- 日本肢体不自由児協会・指導係 3 "
- 精神衛生係(事務とPSWを兼務) 10 "
- 静岡県精神衛生センターPSW 2 "
- 教師 1 "
- 保母 6 "
- 全電通労働組合 1 "
- 相談員 2 "
- 保母 2 "
- 福祉事務所のケースワーカー 4 "
- 秘書 2 "
- 事務 1 "
- ケースワーカー 3 "
- PSW 3 "
- 地方公務員(保母) 2 "
- 職業更生相談所 8 "
- 公務員 6 "
- 女子大カウンセリングセンター研究員 3 "
- 石川県社会教育センター 1 "
- 児童福祉司 4 "
- 日本赤十字社長崎原爆病院PSW 7 "
- 医療ケースワーカー 3 "
- 社会福祉協議会職員 7 "
- 富山市役所民生課 1 "
- 地方公務員 5 "
- 司書(病院勤務) 5 "
- 児童館, 児童厚生員 1 "
- 足立区立第一中学校特殊学級担任 6 "

ロ. その職業を選んだ動機

- 親から独立して結婚する予定があり, 職を得る必要があった
- 先生にすすめられた
- 週3日だから
- 自分で独立したかった
- 統計に興味があった
- 給料と勤務時間にめぐまれた
- MCWを希望したが, 経済的理由で編集につく
- 勉学をつづけたいと思った
- 実習を通してやりたいと思った職業
- 専門の勉強を現場をとおして学びたかった
- 公務員試験で自分の実力を試したかった
- 男女同一賃金
- 他に望ましいものがなかった
- 児童福祉をやりたかった
- 学んだものが役立つように思えた
- 家庭事情の急変により生計の手段が必要であった
- 入学当初から希望していた
- 通勤に便利で仕事が終わってから他のことが出来そうだと誤解したこと
- 福祉を勉強したのだからやってみようかと思った
- 両親が医師のため病院関係の方がなじみ深かったから
- 専門が生かせると思ったから
- 体が余り丈夫でなかったので場所が自宅に近く, 子どもが好きだった。園長の人柄につれて
- 自分にむいていると思ったので
- 実習を1年間して様子がわかっていた。専任のワーカーが外国出張の間ということ
- 教育実習で(青鳥養護施設)精薄児の純朴さと教育の分野での可能性が考えられたことで特殊学級を選びました
- 国家公務員中級, 女性が働き易い職場と思った
- 公務員は紹介者を必要としないこと。職場内の男女差別が少なく, 安定していること, 仕事の内容も福祉関係の仕事ができること
- MSWを望んだが職がなかったので先生にすすめられた
- 自分で選抜試験を受けた。希望する職場でなかったが精神衛生法改正直後であったため, 当時の茨城県精神衛生相談所長の県への働きかけで就職ができた
- 実家から通えたので

2. 卒業後すぐ就職した方

イ. 紹介者

紹介者	先生	研究室	指導者	知人	友人	その他	無回答
人数	32	4	3	10	5	28	12

- 養護学校での実習が心に残り、特殊教育に入ろうと決心した
- 児童の実習を通してケースワーカーの仕事をするにはもっと生活経験が必要であることを痛切に思い児童との生活を通して、もっといろいろな問題を考えたいと思った
- 日本における労働者の状態を知りたいと思ったし、又自分自身の力量も知りたいと思ったから
- 対象が母子家庭の高校生であったことと週5日制
- 4年次の実習を精研で学び、実際には「正常児」についてもっと深く知らねば「異常児」について判断が出来ないのではないかと思い保母を選んだが体をこわして2年間しか続かなかった(胃かいよう)
- 職場が家に近く、男女平等の職場ゆえ学んだことが多少なりとも役立つと思った
- 経営者への興味
- 中小企業で興味があつた
- 実習にゆきそのまま勤務するように先輩にすすめられたため
- 丹沢の山のふもとの精神病院ではじめてのケースワーカーときいてやる気になった
- 目白祭で保育所の実態を知り、子どもたちのすばらしさを知る。保母こそ天職とと思って
- 社会福祉の専門職につきたかつたから
- 公務員は女性として比較的安定している
- 当時の自分の生きる姿勢をさらに追求できると考えたから
- 大学で学んだことを役立たせられると思った
- 児童相談所の仕事がしてみたかつたから
- はっきりしたものはない
- 現場にとび込んでみたかつた。クライアントとの関係の中で自分自身も成長していくというケースワークに興味をもっていた
- 社会福祉の直接の現場でなく、調査等により社会福祉にたづさわるところ
- 市役所は自宅から近く、公務員なのでいろいろな点でめぐまれているから
- 社会福祉の分野であるから
- 希望していた司書的な仕事であり、場所も家から近かつたので
- 就職先を時間をかけて選ぶ余裕がなく、幸い求人があつたので
- 選んだというより、それしかなかつたため母の体が

弱く半日だけという条件にひかれて

- 高校時代、受験、受験の生活の中で反対方向して、自分の生きがいを見出したいという気がしており、ふと見た本から(障害児教育について)この職業を考えだした

ハ. 職業の条件について

給料	8,000	11,000	12,100	13,100	14,100	15,100	16,100	17,100	18,100	19,100	21,000	31,000
	10,000	12,000	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000	30,000	40,000
数	8名	3	4	2	5	3	3	7	2	2	15	5

41,000	51,000	81,000	91,000	計
50,000	60,000	90,000	100,000	110,000
2	1	2	3	1
				68

勤務時間	3時間	4時間	5~7時間	8時間	8~10時間	12時間以上	週3日	無回答
数	1名	1名	10名	65名	5名	2名	2名	6名

註 12時間以上は施設勤務者、立て前は8.5時間だが、実際は住込みのため時間延長となる

有給休暇 数	あり 76	なし 6	無回答 6
-----------	----------	---------	----------

ニ．社会福祉学科で学んだことが役立ちましたか

- あまり役に立たなかった
  - 大変役に立った
  - 特にどの面では云えぬが、他の人より理論的に話すことが出来ると思う
  - 職場での人間関係に間接的に役立った
  - 特にない
  - 組合婦人部の問題には積極的に参加出来ました
  - 再教育の場があると、より自分のものとして消化出来たと思う
  - 技術面では役に立たない
  - 専門職として就職当日から一人前の仕事をするためには、在学中の学問は3割程度しか役に立たない。専門職養成のための科のカリキュラムの有り方にも問題があると思う
- 基本概念に加えて、関連機関や法規の知識、活用法などを実際の高度なケース研究によって徹底的に年中学ぶゼミのようなものがあれば医療社会事業司なら日本女子大と云われる程の効果を上げられると思いました
- 真に役立つことは何も学ばなかったように思う
  - 基本的物の見方、考え方では役に立ったが、具体的にケースワーク、グループワーク、その他が役に立ったかは疑問である
  - 基本的なところで役に立ったと思う
  - 考え方の基礎にはなったと思う
  - 現場では学んだことが直接すぐに生きることはなかったけれど看護学院の講義には役立った
  - 本部に於ては主として保育問題を担当し、現場に於ては障害児への具体的指導に当りそれぞれに学んだことがすべてとはいえないが役立っている部分が多かったと思う
  - 役に立ったことは多かった。みどりの家で働けなかったことは淋しかった。秘書の仕事は結婚しなければもっと勉強して有能な秘書になり生涯続けたい職業だった
  - すべて役に立ったが、まだまだ沢山勉強することがあると思った
  - 見学で各施設を見聞しておいたことが、精薄児そのものと、又周田との関り合いを考える時に非常に役

立った

- 学んだことは役立っているが、学び方について足りなかったことを反省している
- 法律関係、特に民法関係の講義がカリキュラムにあったらよかったと思う。「家族法」はあったが契約関係についての知識を得る機会が欲しかったと思う
- ほぼ役立っているが、精神衛生の授業時間数が少なかったし、興味を持って勉強していなかったので、戸まどい、医学知識の不足から最初は困った
- 技術論として知識はあっても実習としてやらなかったもので、面接の仕方には困難を覚えた
- 実際ののくいちがいの為、ケースワークという授業が何らかの型としての授業として役立った。その他すべての授業が何らかのかたちで役立っていると思う
- 精神病院で仕事をするとき、患者の側に立つか病院（経営者）の側に立つかで自ずと態度は変わってくるし、社会福祉科で学ばなければ、その仕事に意義など見出せなかったと思う
- 広い見地から保育所を把握し、保母として働くことが出来た
- 基礎として役に立っているが技術的なことは何ら勉強していなかったので入ってからやり直しをした
- 公務員ですがあまり役立たなかった
- 有形、無形には役立ったかも知れない
- 現在は大学在学中にもっともっと勉強しておけばよかったと思っている
- 理論と実際とは大きな違いがございました。もう少し心理学を学んでおいたらよかった
- 大学では教育に関する単位が少なく、あっても社会科教諭のためであり、非常に不都合した
- 人の見方、親との面接に関してなど
- 役立ちました。労組なので男性が多く雰囲気はビリビリしていたし、社会状況もかなり激しい動きがあり、大変苦労しましたが、人間関係の調整に役立ちました
- ケースワーク、グループワークという技術論よりも「福祉」そのものの考え方にたるような基礎科学の勉強がより役立ったように思われます
- 福祉という仕事は、相手を理解する意味で同体験も重要だと思う。技術と実践は違っていました。技術や理論を学ぶと同時に、「その人らしさ」といった生き方を身につけた人が広い視野に立って、職業を

進めて行けるのではないかと思う

- 直接的にはなかったと思うが、もの見方に於て全体的に役立っている
- 社会福祉諸立法の概略を知っていたために仕事にもスムーズに入れた
- 考え方、或は単純な事務作業の内にある福祉を意識できるというような面で役立っていると思う
- ものの考え方とか、社会福祉行政との関係についての考え方が間接的に役立っていると思う
- 色々雑用の仕事までやらねばならなかったので直接は役立たなくても間接的に役に立ったと思う
- 特に公務員としてとらえ方の枠が狭くなりがちな時学科で学んだ事を改めて復習することで、幅広い考え方が重要である事に気づかされます
- アドバイザーであった先生から、馬車馬のようにみないで、ものごとを広くみなさいといわれたことが身にしみています。広く学ぼうとしたことはよかったです

### 3. ボランティア活動

イ.	した	しない	無回答	計
	21名	69名	11名	101名

ロ. 機関名	活動内容
肢体不自由児施設	生活の世話
(現) ボランティアコーナー	調査の手伝い
家庭福祉センター	グループワーカー
みどりの家	ケースワーカー3名
(現) 友の会	施設訪問・老人用
B・B・S	おむつ作り
東京YWCA	中高部リーダー2名
老人ホーム手伝い	研究, 実践練習
札幌市青少年ボランティア研究会	
(現) 特別養護老人ホーム(衣笠ホーム)	老人の話相手
心身障害児のためのボランティア活動	専門家との違い
学生ボランティアグループ	身体障害児の手伝い
(現) 耳から聞く図書館	会費のみ参加
ホームアジア	東南アジアの留学生との交流

(現) 東京青友会

霞 ユネスコ研究会

(現) 日本点字図書館

日赤語学奉仕団

障害児施設

名大病院・市民病院

肢体不自由児の会

労働兄弟学舎

横須賀社会館

都社会教育

駒場子ども会

東南ア・青少年指導者との交流

在日外国人の青少年と日本の青少年の交流の世話

点訳

企業へアンケートをとりに行った

子ども達と遊ぶ

精神科ケースワーカー

訓練会の手伝い

ワークキャンプ(社会施設で)

児童の夏休み指導

青年の家補佐

地域子ども会

### 4. 卒業後進学の有無

イ.	進学した	進学しない	無回答	計
	15名	77名	9名	101名

学 校 名	専 攻	留学先
• 日本女子大学	社福研究	
• 明治学院大学	社会福祉・大学院修士課程	
• 法政大学大学院	経済学	
• オハイオステートユニバシティ	ケースワーク	アメリカ
• 東洋大学	図書館学	
• 日米会話学院	英会話	
• 日本女子大学, 通信教育	児童学科	3名
• YWCA 秘書科	秘書科	
• 経理学校	簿記	
• 武蔵野ドレメ	洋裁	
• 同志社大学大学院	社会福祉	
• 明治学院大学大学院	社会福祉	
• 日本病院協会診療記録管理士, 通信教育		

### 5. 資格取得の有無

	資格とった	資格とらない	無回答	計
	33名	53名	15名	101名

保母	4名
タイプ(英文)	4名
司書	2名
運転免許	3名
華道	3名
茶道	1名
書道	1名
日本舞踊	1名
幼稚園教諭普通1級免許	1名
日本レクリエーション協会指導員	1名
英語検定2級	1名
ガールスカウト正リーダー	1名
衛生管理者	3名
修士	1名
教員免許証	3名
学校司書教諭	1名
簿記3級	1名
現在児童福祉司として採用	1名
日本レクリエーション2級指導者	1名
日本病院会認定診療録管理士	1名

結婚年令	20才	22	23	24	25	26	27	28
数	2名	7	10	16	18	16	6	3

29	30	31	32
2	2	1	1

2. イ

子ども 有	77
子ども 無	8

現在配偶者 有	85
無	0

2. ロ

子どもの数	1名	2名	3名	4名	出産予定	計
数	15	41	17	3	2	78

9. 現在誰と住んでいるか

夫	7	夫と子ども実母	2
夫と子ども	60	両親と	6
姑と夫と子ども	6	母と	3
夫の両親と子ども	6	両親と妹	4
姑、義兄、夫	1	両親と弟家族	2
夫、夫の両親	1	姉、妹	1
		1人	2

10. 自分を生かすために何かしているか

- 国際関係、文明などの資料を読んでいる
- 三味線
- スナック教室に通う
- 華道
- 茶道
- 書道
- クッキングスクール
- コーラス・バイオリン
- ボランティア講座
- オルガン・ピアノ
- 料理
- 洋裁・和裁・紬刺
- 英会話
- 保母試験の為の勉強
- みどり会歴史研究会
- 速記
- 陶器
- 園芸
- 消費者活動
- 大阪市立大に聴講生として週一度通学
- 消費生活リーダー養成講座受講

6. 表彰等について

- 昭36年 人種差別問題の論文を書き旺文社より
- 昭47年 奨励賞 厚生統計協会より論文に対して
- 昭50年 新生活運動協議会 論文に対して

7. 著書・論文・文集等

- |                       |          |        |
|-----------------------|----------|--------|
| 書名(論文名)               | 発行所      | 発行月日   |
| • 資本論における論理構成         | 日本女子大学紀要 | S40.5  |
| • 家庭保育員制度に関する考察       | 修士論文     |        |
| • 保育原理                | 相川書房     | S50.10 |
| • 実践記録 生きる「精神薄弱」母親と家族 | ドメス出版    | S50.8  |
| • 障害者の職業 厚生指標         |          | S46.2  |
| • 中高年障害者の職業 厚生指標      |          | S48.2  |
| • 研究報告集(脳卒中の職業)       | 都センター    | S46    |
| • (障害者のビル管理について)      | 都センター    | S48    |
| • 心身障害児者福祉論           | 労働旬報社    | S49.8  |

8. 結婚について

結婚した	結婚しない	計
85名	16名	101名

- 校正の勉強
- カウンセラーセンターで勉強
- 編物
- みどり会福祉委員
- 子どもの幼稚園で幼児教育・幼児の言語，家庭教育  
社会経済の講義を受講
- 点字の習得・点訳の奉仕
- 福祉の分野で自分の中に積んできたものを発展させ  
たいと思っている
- エレクトーン
- バトミントン
- 水泳クラブ
- 職場のサークル（書道・生花・木目込人形・料理）
- ドイツ語
- 英会話
- 紙人形
- 医療保険請求事務，医科を修了現在歯科
- 「子どもの問題を中心に関心は絶えず持ち続けている
- フルート
- 幼児教育の勉強
- フランス語
- 子どもが満1才を過ぎたので何か勉強したいと思っ  
ているところ

#### 11. 現在所属している団体名

- 社会福祉学会
- 日本教職員組合
- 大学婦人協会岡山支部
- 辻堂団地コーラス部
- テニスクラブ
- 日本キリスト教団堺大浜伝導所
- 実践倫理“宏正会”
- 地域生活協同組合
- 小学校PTA
- 婦人問題懇和会
- 婦人有権者同盟
- 地元自主グループ
- 東京交友会
- 霞ユネスコ研究会
- 生活クラブ
- 市社会福祉協議会
- “友の会”
- 日本図書館協会々員

- 日本ネパール協会々員
- 新日本婦人の会
- ガールスカウト・ジュニアリーダー
- みどり生協（生活協同組合）
- 婦人問題懇談会
- 日本精神医学ソーシャルワーカー協会
- 豊橋の室内楽協会
- 芸術療法学会
- 日中友好協会（正統）長崎県本部会員
- PL宗教団体
- 岩手県レクリエーション協会
- 岩手県公的扶助ワーカー協会

#### 12. 現在より考えて社会福祉学科に入って

良かった	81名
悪かった	8名
その他	6名
無回答	6名
計	101名

#### イ. 良かった理由

- 自分より恵まれぬ人の存在を具体的に知ることがで  
きた
- 福祉社会を先どりすることが出来た
- 講義の内容は社会事業的なものが多く先どりしたも  
のは少なかった
- 生活指導の分野で役に立つ
- 相手の立場で物を考えられる
- 家の仕事が開業医で多分に病気以外の問題を持った  
患者さんと接したり，県市の関係の仕事など役に立  
つ
- ケースワーク，グループワークなど役に立つ
- 自分の能力を開発して行くことができた
- 広い視野で社会，経済，人間関係について考えるこ  
とを学ぶ
- 保母の資格等は在学中に取得出来るような方法はない  
か
- 形のある資格がとれないということ。再就職の希望  
をもったとき叶えられない
- 社会意識をもったことは良かった
- 専門的なものは持っていないが世の中を見る目，勉  
強しようという意欲を現在も持っている
- むづかしくて悩むことが多いが人間相手の仕事はお  
もしろくてやめられません

- 生きる上で精神的なはげみになる
- 養護施設に勤めたことが今の私を支えている
- 一度家庭に入った場合再就職はむづかしい。保母コースをとった者には資格がとれる実地の場が欲しい
- 80才過ぎてピアノを習って保母試験を受けることになって、つくづく思う
- 物の考え方が客観的である
- 常に平等の意識があり、他人の立場になって考えられる
- 社会福祉に対する基本的な考え方を身につけたと思う。いろいろな社会問題に対して常に弱者の立場を考えることができる
- 現在17才になるダウン氏症候群の妹が居て、その世話で結構忙しい毎日です
- 卒業後専門分野に就職したわけではないが又、家族の病気により将来も就職の見込みもないが、日々の生活の中で生かして生きたい、探してみたいという気持ちがあるので良かったと思う
- 人間生活の最低の条件から理想の福祉まで幅広く生活を考えることを学んだ
- 仕事を通して自分自身の生き方を考えられる
- もう少し専門性と呼ばれるものを身につけて卒業したかった
- もののみ方が社会的にやや広く見ることができると思う。ただ主婦専業をしながらかつ、実収入のある資格や技術があるといいなど考える。
- 現在の仕事に結びついていること、科学的に福祉問題をとらえる基礎的な学習ができたこと
- 女性が勉強するには限度があるので、社会科学の一つとして学んだことは良かったと思っている
- より広く社会を知った
- 底辺に住む人達との接触、矛盾への目ざめは非常によかったが学習内容に浅さがあったのではないか
- 人とのかかわりは一生つづくし、物事を考えるきっかけ、考え方など勉強した
- 何かの困難につき当たったとき、何とかしてそれを克服しようという気が起るようになったこと
- 人の心を思いやれるケースワーク的に対人関係、自分の子どもに社会福祉と云おうかもの見方を指導できる
- 「社会福祉」そのものの学問を学んだというより「社会福祉的思考の基礎となる学問が幅広く要求されることを知り、いろいろな角度から物事を見、解明してゆく基礎的な態度を養う上では学科に属して4年間の大学生活を送ることが出来たこと、又自己をみつめる大事な青春時代を過ごしたことは今もよかったと思っている
- 「人間らしい生き方」に関して自分なりに基礎的な理念を把み得たと思う
- 地域自治会の活動においても又、生協の活動においても対社会、対人間の立場で行動出来るように思う。又日常生活においても自己中心にだけ物ごとを考えないで生活出来る
- ケースワーカーとして働いたことからいろいろな人にめぐり合い、機関等に接触出来たこと
- 「人間（生命尊重）」の大切さを軸として人世に一本筋を通して生きて行ける
- 社会へ眼を開いていることができるし、それ故現在も職業についている気になっている
- ケースワーカーの仕事はとてもむづかしいがおもしろいので大学で学んだことを基礎にもっと勉強を続けたい
- 児相のケースワーカーとしてケースの関係の中から教えられることばかりでした
- 今後暇が作れたらボランティア活動でもしてみたいと思う
- 高校時代までは全くの政治無関心層でしたから、社会福祉科に入学して、世の中のことを知らねばならないという風に眼覚めてきました
- PLにおける宗教活動（身献）を通して、ケースワークが非常に役立ち人間尊重を学んだことがとても良かった
- 吉沢先生に出合ったこと。仕事をしていた時も、現在もいきづまった時いつも良きアドバイスをして下さる
- 女性の一生の職業につながっていたし、他に今のところ興味もない
- 社会福祉＝慈善という考え方があらたまったから
- 社会に出るとどんなことでも知っていて害になるなどということはないし、何よりも授業を通して知ることのできた学ぶ態度や姿勢というものはかけがえないものだと思う
- 将来も現在の仕事を続けていくつもりであり、社会福祉学科で学んだことが役に立っているのよかったです
- 率直にいったらもっと他の方面に進んだ方が良かった

のではないかと思うこともしばしばありますが、少くとも社会福祉ということが遠くにあるものではなく、自分自身に身近な問題であると考えられることは良いことだと思う

- 一口で云えば良かったと思うが、自覚してもっと巾広く学んだり人々と交流しておけばよかったと思う学科の教授内容は日々改善されてきているが、我々の時はその境で新しい制度のもとでの学習を試みたかった

#### ロ. 悪かった理由

- 内発的欲求がうすいまま転科したため現在でも十分定まらぬ
- 学生時代学んだことがいまだに生かせないでいる
- 全てが中途半端という感じでもったいなかった
- 社会福祉学科の学問は行動の学問と思いますが、理論的には理解出来ても行動にうつせなかった私には向いてなかった。常に悩みつづけてしまった
- 文科系ならどこでも良かったと思う
- 法律、あるいは経済学を学んだ上で社会福祉関係の勉強をした方がよい
- 自分の志向にそって大学を利用すべきだったと思う
- 社会福祉学というものが、学問として成り立っていないように思う。基礎知識も持ってないのに技術的なことのみで終始したようだ。卒業後仕事についてから学んだことの方が大きいし、その基礎すらできていなかったことが残念です

#### ハ. その他

- はっきり意識して良い、悪いと思われたい
- 学科の特色でなくあの時期に多くの人々と接する機会があり集団で教えられたことが役立っている
- 後悔しないようにしたいと思っている
- どちらとも云えない。今のところ必要ない
- いい面もそうでない面もある。社会福祉分野のことだけに目をむけてしまいがちになる。もの見方が一方的なきらいがあるという点ではあまりよかったとは云えない

#### 18. 最近の社会的な問題で関心の深いもの

- 開発途上国の民族自決の問題
- 女性の社会的地位向上への関心
- 赤軍派の全世界に与える影響
- 老人福祉・老後の在り方
- 母子家庭

- 公害
- 資源問題
- 先進工業社会としての教育の未来
- 中国問題
- 物価問題
- オイルショック
- 人口問題
- ばらつき福祉の在り方
- 食糧問題
- 医療問題
- クワラルンプールに於けるアラブ・ゲリラ事件
- 主婦問題
- 生命尊重と日本人の科学性の欠如
- 生活をとりまく諸問題
- 1974年恐慌
- 学校教育のあり方
- 学童保育の問題
- 世界の政治経済の動向
- 複合汚染
- 投薬される薬禍
- 社会福祉のあり方
- 軽度心身障害児を普通小学校へ
- 失業問題
- 平和問題
- インフレ下の福祉の問題、福祉施設が真先きにやり玉にあげられ、拡充や内容の豊かさが無視されていること。地方の老人ホーム、精薄児の収容施設の職員不足
- 赤軍派の大胆な行動は怒気を覚えます
- 不景気のおかげで、使いすて時代は終り、物を大切にす精神が叫ばれるようになってよかった。思想の自由は大切ですが、他人に迷惑をかけないように願っている
- 歪んだ教育制度、貧弱な社会福祉政策
- 沖縄海洋博
- 食品公害や環境汚染
- 農村問題・労働問題
- 女性のライフサイクルと老人問題
- 婦人問題、女が対等に働き続ける条件を確立すること
- 医療事故問題
- 母乳汚染、注射公害
- 21世紀に生きる子ども達の生活がどんなものにな

ってゆくのか、教育問題にやはり関心がむいている

- 住民参加の市民運動，地域活動
- 石油危機に端を発する価値感の転化
- 食糧危機
- 子どもの教育
- 人間そのものを大切にしないことについて
- 母子心中，父子心中の多いこと，ゆがんだ社会の中で子ども達はどう生きてゆくのか
- 経済活動がどうなるのか，障害者や福祉への影響について
- 女性の育児からの，家庭からの，そして自分からの解放について女性自身の意識の変革
- 核家族化などの家族問題
- 日中平和友好条約締結に関する問題
- これから先どんどん悪い方向に行くのではないかと不安になる
- 地方自治体の財政危機
- 仕事の関係の他，婦人労働の問題
- 小さい子どもがいると，どうしても将来の社会がどのようなのかということに最も関心があります。そして公害問題，資源や食糧不足の問題などから考えてどうしても不安にならざるを得ない

#### 14. 現在の学生に期待すること

- 社会の第一線で役立つようにしっかり勉強してほしい
- 結婚して子どもが来ると仕事はむづかしい。それ迄に学んだことを生かしてほしい
- 若い時に幅広い知識を身につけ積極的に行動してほしい
- 本を沢山読むこと
- 身近な技術的なことより複眼思考を学ばれることを期待する
- 問題を考え対処できる人間になってほしい
- 豊かな人間性を養うこと
- 4年生大卒として就職するなら，2・3年で絶対に辞めないこと
- 借りものでない自分の考えと判断力
- 学問で土台の出来たあたたかい心だけは忘れないでほしい
- もっと多方面に進出して欲しい
- 入学年度ぐらいに進路を決めて勉強してほしい
- 理論も大切だが現場を肌で体験すること

- 社会事業でなく，社会政策的な立場から社会福祉を学んでほしい
- 現実の社会ありのままを観ること。嫌いなものに無関心をよそおうのではなく直視して貰いたい
- 結婚による仕事の中断をどう受けとって行くか，どう対処するか，その見通しを学びとってほしい
- 福祉問題を知識としてとらえるのではなく，主体的に自分にかかわる問題として勉強してほしい
- 英語だけでなく他にもう一つ勉強
- 仕事をもちつづける，経済的独立を身をもってなすこと
- 複雑な社会を理論的に解明し，社会の本質を知った上で具体的な知識，福祉のあり方を考えてほしい
- 在学中は原論的な勉強をしっかりとってほしい
- 何か一つ4年間で自分が精一杯学んだというものを持って卒業してほしい
- 分野は広がる一方，学生から主婦のコース一直線ではなく，就職し社会でもまれることを期待します
- 腰掛け的な就職はやめて，少なくとも3年位は腰をすえるつもりで社会に出てほしい
- 実習は大変有効です。実習先の指導者の重要性を痛感しました
- 教養の為に学ぶのではなく，仕事をし家庭にとどこもらないこと
- 技術論におち入らないようにすること。社会福祉とは何かをきっちり考えること
- 4年間学んだ知識を生かす為にも，職業人として活躍してほしい
- 学生時代は広く，出来るだけ沢山の経験をし自己錬磨の機会を多くしてほしい
- どんどん現場に出て息の長い活躍をしてほしい
- 勉強をしていく手がかりを早く見つけ，それを発展させていく情熱を持ち続けてほしい
- 福祉という意味をもっと一般の人にも考えてもらえるように，わかり易い活動方法など学んでほしい
- 将来どういう形で社会の中で自分の能力を生かしていくか真剣にとり組んでほしい
- 経済学をきちんと学んでおいた方がよい。広範囲にわたって友達をつくること
- 語学をしっかりとって国際化した日本の福祉の分野で十分やって行けるよう実力をつけてほしい
- 将来一人でも多くの人が現場に出てほしい
- 政治学，経済学を一般教養としてでなく，社会福祉

- を支えるものとしてしっかり学んでほしい
- よく学び、よく遊んでほしい
  - 社会福祉はお嬢様芸ではないということ
  - 社会福祉だけでなく、幅広い視野を持って
  - 人が生きるということのあたたかな理解を持って現場に出て活躍してほしい
  - 現場で、実社会で学ぶ姿勢を常に持ってほしい
  - 困難を克服する人間になってほしい
  - 広い視野をもち、一つのことを多方面から見ることが出来る人間になってほしい
  - 福祉が叫ばれてから久しいが、現実には少しずつ良き方向にあるとしてもまだまだきびしい日本の社会福祉を世界的なスケールの中で考える為の方法論を学生のうちに先輩、先生、老人から学び、身につけるよう努力してほしい。つねに広い視野をもちつつ、困難な事柄にむかってゆく勇氣と実力を養ってほしい
  - 生涯にわたって「持論」とも云うべき社会福祉観を自分の言葉と考えで構築してほしい。そして、その理論に従っていかなる場でも行動できる人間になってほしい
  - 志を持った方はよく学びより専門化し、高度に浄化してほしい
  - 一人の女性、人間として成熟することだと思う
  - 社会に出てからと学問的なハンディはあっても基礎となる学科はしっかり把んでほしい
  - 幼いといわれても正しいことを正しいと云える人であってほしい
  - 背伸びをせず、自分の頭、自分の言葉で物事を考えてほしい
  - 基礎をみっちり勉強してほしい。福祉も次々と新しくなっているので新しいことにも眼を開いてほしい
  - 将来福祉関係の仕事についた場合できる限り長く続けてほしい
  - 人間全ては良い人であり、人類を愛し、平和を願う気持を養ってほしい
  - 現場に出てみて社会活動の必要性を痛感したので、学生のうちにその点についてより多く学んでほしい

- リッチモンドの“What is Social Case Work”を原書で読んだらどうでしょうか
- 理論を頭で理解するとともに、現場できびしい労働条件の中でも働いている人達の“情熱”みたいなものを理解してほしい
- 学校で学ぶことだけが勉強でなく、これから先もずっと勉強であることを自覚して、しかし学校で学ぶことは、その時しか出来ないということを知ってもらいたい
- 単なる教養におわらせず仕事、ボランティアなどの形で積極的に社会に学んだことを還元するという姿勢で学んでほしい
- あまり偉そうなことは云えないのですが、自分自身の態度をふり返って反省してみると、ただばく然と社会福祉について勉強するというのではなく、何か一つの問題意識を持ってそこから出発していくという態度が必要なのではないかと思う

#### あとがき

この号では、すでに記した通り、文学部社会福祉学科時代の資料を掲載した。資料集としてのこの稿について御意見、御助言がいただければ幸甚である。さらに追加資料等お持ちの方は、御教示いただきたい。

今回で、卒業生へのアンケート調査は終了したわけであるが、今後、資料の補足、恩師訪問、日本女子大学以外に所在する本学科関連資料の発掘等をすすめ、当初の予定通り資料集から日本女子大学社会福祉学科50年の通史へとまとめる予定である。

したがって、本学科関連の資料等お持ちの方は御一報いただければ幸いである。

なお、今年の委員は、下記の通りである。

特別委員	神田 和子(新制12回)
研究室選出専門委員	一番ヶ瀬 康子(43回)
	宇都 栄子(新制20回)
みどり会選出協力委員	遠藤 節子(46回)
	田中美代子(新制1回)
	島田 広子(新制6回)